

(様式第10)

和医大経第439号

令和6年10月4日

厚生労働大臣

殿

開設者名

公立大学法人和歌山県立医科大学
理事長 中尾 直之

和歌山県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒641-8509 和歌山市紀三井寺811番地1
氏名	公立大学法人和歌山県立医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

和歌山県立医科大学附属病院

3 所在の場所

〒641-8510 和歌山市紀三井寺811番地1
電話 (073) 447 - 2300

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	無					
内科と組み合わせた診療科名等						
	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	4腎臓内科
	5神経内科	○	6血液内科		7内分泌内科	8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			11リウマチ科

診療実績

「呼吸器内科」の診療内容は呼吸器内科・腫瘍内科にて、「腎臓内科」の診療内容は腎臓内科(人工透析)にて、「神経内科」の診療内容は脳神経内科にて、「内分泌内科」「代謝内科」の診療内容は糖尿病・内分泌・代謝内科にて、感染症内科については呼吸器内科・腫瘍内科、アレルギー疾患については呼吸器内科・腫瘍内科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科等にて、「リウマチ科」の診療内容はリウマチ・膠原病内科にて提供している。

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	無						
外科と組み合わせた診療科名							
	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							
「呼吸器外科」「乳腺外科」の診療内容は呼吸器外科・乳腺外科にて、「消化器外科」「内分泌外科」「小児外科」の診療内容は消化器・内分泌・小児外科にて提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	無						
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
診療体制							
通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	糖尿病・内分泌・代謝内科	2	呼吸器内科・腫瘍内科	3	脳神経内科	4	リウマチ・膠原病内科	5	神経精神科
6	形成外科	7	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	8	リハビリテーション科	9	病理診断科	10	腎臓内科(人工透析)
11	呼吸器外科・乳腺外科	12	消化器・内分泌・小児外科	13	産科・婦人科	14	歯科口腔外科	15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
40				760	800	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	445	119	455.7
歯科医師	12	8	12.1
薬剤師	57	1	57.4
保健師	5	0	5.0
助産師	46	7	51.0
看護師	682	67	730.0
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	5	0	5.0
管理栄養士	8	2	9.9

職種	員数
看護補助者	35
理学療法士	33
作業療法士	11
視能訓練士	5
義肢装具士	0
臨床工学士	29
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	44

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	57
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	11	
その他の技術員	42	
事務職員	212	
その他の職員	16	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	40	眼科専門医	10
外科専門医	33	耳鼻咽喉科専門医	10
精神科専門医	9	放射線科専門医	20
小児科専門医	18	脳神経外科専門医	13
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	14
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	15
産婦人科専門医	14	救急科専門医	12
		合計	224

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (西村 好晴) 任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

- ・日本医療安全学会 高度医療安全推進者(2022.10月～2025.10月)
- ・医療事故調査・支援センター 個別調査部会員(R4.9月)、個別調査部会長(R5.4)、医療事故調査委員会内部委員(R5.7)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	597.4 人	5 人	602.4 人
1日当たり平均外来患者数	951.7 人	59.5 人	1011.2 人
1日当たり平均調剤数	853.9		剤
必要医師数	123		人
必要歯科医師数	4		人
必要薬剤師数	21		人
必要(准)看護師数	339		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	有
集中治療室	417 m ²	鉄骨耐火構造	人工呼吸装置	10 床	有	有
			その他の救急蘇生装置		有	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	196.5 m ²	病床数	14 床	
	[移動式の場合]	台数				
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	71 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	903 m ²	鉄骨耐火構造	(主な設備)	臨床化学測定装置、免疫測定装置、糖分析装置、遺伝子解析システム、血液ガス分析装置、血球分析装置、血液凝固線溶測定装置、等		
細菌検査室	90 m ²	鉄骨耐火構造	(主な設備)	細菌同定・感受性装置、血液培養検査装置、質量分析装置、抗酸菌培養検査システム、抗酸菌遺伝子解析システム、ドラフトチャンパー、ふ卵器、蒸気滅菌器、等		
病理検査室	191 m ²	鉄骨耐火構造	(主な設備)	自動薄切装置・細胞診標本LBC作成装置		
病理解剖室	363 m ²	鉄骨耐火構造	(主な設備)	解剖台・写真撮影装置		
研究室	15846 m ²	鉄骨耐火構造	(主な設備)	デジタル顕微鏡システム、蛍光顕微鏡システム、細胞イメージ解析装置、セルソーター等		
講義室	616 m ²	鉄骨耐火構造	室数	2 室	収容定員	260 人
図書室	1741 m ²	鉄骨耐火構造	室数	9 室	蔵書数	110,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	87.0	%	逆紹介率	85.9	%
算出 根拠	A:紹介患者の数		15,861		人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数		18,788		人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数		3,161		人
	D:初診の患者の数		21,859		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
山口 悦子	大阪公立大学	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	無	1
中川 利彦	パークアベニュー法律事務所		法律に関する識見を有するため	無	1
浦野 敏	NPO法人いきいき和歌山がんサポート		医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要 該当なし	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績等

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病(派生含まず)	26
2	筋萎縮性側索硬化症	24	57	特発性拡張型心筋症	17
3	脊髄性筋萎縮症	5	58	肥大型心筋症(派生含まず)	19
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	10	60	再生不良性貧血(派生含む)	32
6	パーキンソン病	300	61	自己免疫性溶血性貧血	6
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	67
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病(派生含まず)	11
10	シャルコー・マリー・トゥース病	5	65	原発性免疫不全症候群	1
11	重症筋無力症(派生含まず)	61	66	IgA 腎症	101
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	0
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎(派生含まず)	73	68	黄色靱帯骨化症	2
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	20	69	後縦靱帯骨化症	15
15	封入体筋炎	5	70	広範脊柱管狭窄症	9
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	0
17	多系統萎縮症	11	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)(派生含まず)	28	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	11
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	10	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	8
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	4	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	1	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	39
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	5
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症(派生含まず)	10
32	自己食空腔性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3
34	神経線維腫症(派生含まず)	17	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡(派生含む)	25	90	網膜色素変性症(両含む)	7
36	表皮水疱症(派生含む)	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)(軀幹以外の派生含まず)	3	92	特発性門脈圧亢進症	5
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	44
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	6	95	自己免疫性肝炎	43
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病(派生含まず)	94
42	結節性多発動脈炎	4	97	潰瘍性大腸炎(派生含まず)	182
43	顕微鏡的多発血管炎	20	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	3	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	8	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	5	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	5	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	226	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	53	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	43	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	30	107	若年性特発性関節炎(派生含まず)	2
53	シェーグレン症候群(両含む)	95	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	12	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	7	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	16
113	筋ジストロフィー(派生含めず)	1	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	17	167	マルファン症候群	8
118	脊髄髄膜瘤	11	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	6
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	1
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性	0	175	ウィーバー症候群	0
126	白質脳症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	ペリー症候群	0	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	前頭側頭葉変性症	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	ピックースタッフ脳幹脳炎	1	179	ウィリアムズ症候群	5
130	痙攣重積型(二相性)急性脳症	2	180	ATR-X症候群	0
131	先天性無痛無汗症	0	181	クルーゾン症候群	0
132	アレキサンダー病	0	182	アペール症候群	0
133	先天性核上性球麻痺	0	183	ファイファー症候群	0
134	メビウス症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	アイカルディ症候群	1	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	片側巨脳症	1	187	歌舞伎症候群	1
138	限局性皮質異形成	0	188	多脾症候群	4
139	神経細胞移動異常症	0	189	無脾症候群	1
140	先天性大脳白質形成不全症	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	ドラベ症候群	1	191	ウェルナー症候群	0
142	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	192	コケイン症候群	1
143	ミオクロニー欠神てんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	7
144	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	194	ソトス症候群	1
145	レノックス・ガストー症候群	0	195	ヌーナン症候群	3
146	ウエスト症候群	1	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	大田原症候群	0	197	1p36欠失症候群	1
148	早期ミオクロニー脳症	0	198	4p欠失症候群	0
149	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	199	5p欠失症候群	0
150	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	環状20番染色体症候群	0	201	アンジェルマン症候群	3
152	ラスマッセン脳炎	0	202	スミス・マギニス症候群	1
153	PCDH19関連症候群	0	203	22q11.2欠失症候群	5
154	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	204	エマヌエル症候群	0
155	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	ランドウ・クレフナー症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	レット症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	スタージ・ウェーバー症候群	2	208	修正大血管転位症	11
159	結節性硬化症	12	209	完全大血管転位症(派生含む)	17
160	色素性乾皮症	0	210	単心室症(派生含む)	12
160	先天性魚鱗癬	0			

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	2	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	5	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症(伴うかどうかは不明)	25	262	原発性高カイトミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	64	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	24	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	5	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	6	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	10	268	中條・西村症候群	1
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候	3
222	一次性ネフローゼ症候群(右記件数全てが一次性かどうかは不明)	92	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎(右記件数全てが一次性かどうかは不明)	6	271	強直性脊椎炎	4
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)(ハンナ型かどうかは不明)	1	274	骨形成不全症	4
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	3	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)(自己免疫性又は先天性かどうかは不明)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	8
230	肺胞低換気症候群	3	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ベルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症(派生含まず)	5	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	5
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシუსブルング病(全結腸型又は小腸型)(型名不明)	6
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	2	294	先天性横隔膜ヘルニア	1
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症(派生含む)	8
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	1	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	1
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アツシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	11

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクロームスてんかん	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	2	325	遺伝性自己炎症疾患	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	326	大理石骨病	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1 B関連腎症	0	329	無虹彩症	0
316	カルニチン回路異常症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	1
317	三頭酵素欠損症	0	331	特発性多中心性キャスルマン病	1
318	シトリン欠損症	1	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI)欠損症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	0
			336	家族性低 β リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
			337	ホモシスチン尿症	0
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
			339	MECP2重複症候群	0
			340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0
			341	TRPV4異常症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	153
合計患者数(人)	2,402

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・呼吸ケアチーム加算
・歯科外来診療感染対策加算4	・術後疼痛管理チーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・後発医薬品使用体制加算3
・医療DX推進体制整備加算1	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料(一般病棟 7対1 入院基本料)	・病棟薬剤業務実施加算2
・救急医療管理加算	・データ提出加算(加算2のイ)
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算(加算1、加算3、地域連携診療計画加算、入院時支援加算)
・診療録管理体制加算2	・認知症ケア加算(加算1)
・医師事務作業補助体制加算1(20対1)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制充実加算(10月予定)	・精神科急性期医師配置加算(1)
・看護職員夜間配置加算(16対1配置加算1)	・地域医療体制確保加算
・療養環境加算(一般)	・救命救急入院料1(注3 救急体制充実加算1、注4に掲げる加算、小児加算)
・療養環境加算(精神)	・救命救急入院料2(注3 救急体制充実加算1、注4に掲げる加算、小児加算)
・重症者等療養環境特別加算	・特定集中治療室管理料2(小児加算)
・無菌治療室管理加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料、新生児集中治療室管理)
・緩和ケア診療加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科応急入院施設管理加算	・小児入院医療管理料2(注2プレイルーム加算)(注7養育支援体制加算)
・精神科身体合併症管理加算	・精神科急性期治療病棟入院料1
・栄養サポートチーム加算	・重症患者患者初期支援充実加算
・医療安全対策加算1	
・感染対策向上加算1(注2 指導強化加算)	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・がん治療連携計画策定料
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・糖尿病合併症管理料	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料イ	・医療機器安全管理料1
・がん患者指導管理料ロ	・医療機器安全管理料2
・がん患者指導管理料ハ	・医療機器安全管理料(歯科)
・がん患者指導管理料ニ	・歯科治療時医療管理料
・外来緩和ケア管理料	・救急患者連携搬送料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2(緩和ケア)
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅患者訪問看護・指導料の注16(同一建物居住者訪問看護・指導料の注6の規定により準用する場合を含む)に規定する専門管理加算(緩和ケア)
・小児運動器疾患指導管理料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・腎代替療法指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・二次性骨折予防継続管理料1	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・下肢創傷処置管理料	・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
・院内トリアージ実施料	・骨髄微小残存病変量測定
・外来放射線照射診療料	・BRCA1/2遺伝子検査
・外来腫瘍化学療法診療料1	・がんゲノムプロファイリング検査
・連携充実加算	・先天性代謝異常症検査
・外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・ニコチン依存症管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・検体検査管理加算(Ⅰ)

施設基準の種類	施設基準の種類
・検体検査管理加算(IV)	・リンパ浮腫複合的治療料
・国際標準検査管理加算	・集団コミュニケーション療法料
・遺伝カウンセリング加算	・歯科口腔リハビリテーション料2
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・経頭蓋磁気刺激療法
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・通院・在宅精神療法の注11に規定する早期診療体制充実加算
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・認知療法・認知行動療法1
・胎児心エコー法	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・ヘッドアップティルト試験	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・人工膵臓検査、人工膵臓療法	・医療保護入院等診療料
・長期継続頭蓋内脳波検査	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・単線維筋電図	・硬膜外自家血注入
・神経学的検査	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・補聴器適合検査	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・内服・点滴誘発試験	・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
・経気管支凍結生検法	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算
・精密触覚機能検査	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・画像診断管理加算1	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・CT撮影及びMRI撮影	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・冠動脈CT撮影加算	・ストーマ合併症加算
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・手術用顕微鏡加算
・心臓MRI撮影加算	・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
・外来化学療法加算1	・歯科技工加算1及び2
・無菌製剤処理料	・センチネルリンパ節加算
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・自家脂肪注入
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)(1次再建、2次再建)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2	・椎間板内酵素注入療法
・がん患者リハビリテーション料	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算

施設基準の種類	施設基準の種類
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)(一次一期、一次二期、二次再建)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法))	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膈腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・網膜再建術	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経外耳道の内視鏡下鼓室形成術	・内視鏡下筋層切開術
・人工中耳植込術	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・胸腔鏡下弁形成術
・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・胸腔鏡下弁置換術
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・経皮的僧帽弁クリップ術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの))
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術

施設基準の種類	施設基準の種類
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)小児を除く	・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的下肢動脈形成術	・腹腔鏡下腎盂形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・同種死体腎移植術
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・生体腎移植術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・精巣温存手術
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・腹腔鏡下陰式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・体外衝撃波胆石破砕術	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・腹腔鏡下肝切除術	・医科点数表第2章第10部手術の通則19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術に限る)
・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外式膜型人工肺管理料
・体外衝撃波膀胱石破砕術	・輸血管理料 I
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・輸血適正使用加算
・腹腔鏡下膵中央切除術	・コーディネート体制充実加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	・胃瘻造設時嚙下機能評価加算
・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯周組織再生誘導手術
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯根端切除手術の注3

施設基準の種類	施設基準の種類
・口腔粘膜血管腫凝固術	
・麻酔管理料(Ⅰ)	
・麻酔管理料(Ⅱ)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・一回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療(IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
・画像誘導密封小線源治療加算	
・保険医療機関間の連携による病理診断	
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	
・病理診断管理加算2	
・悪性腫瘍病理組織標本加算	
・クラウン・ブリッジ維持管理料	
・歯科矯正診断料	
・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	
・看護職員処遇改善評価料58	
・外来・在宅ヘースアップ評価料(Ⅰ)	
・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	
・入院ベースアップ評価料80	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規痛み関連分子Tmem45bに注目した病的疼痛の機序の解明と新たな治療法の開発	川股 知之	麻酔科学講座	2,200,000	補委 日本学術振興会
GPCRシグナルからみた統合失調症と気分障害の作業記憶と感情制御障害の神経基盤の解明	紀本 創兵	神経精神医学講座	3,800,000	補委 日本学術振興会
マイクロニードルを利用した心臓血管用止血シートの開発	本田 賢太郎	外科学第一講座	1,300,000	補委 日本学術振興会
腫瘍随伴マクロファージを標的とした腎癌に対する新たな治療戦略の開発	原 勲	泌尿器科学講座	500,000	補委 日本学術振興会
角膜上皮治療後の実質構造の再構築過程でのムチンの機能解析に基づいた新規治療戦略	白井 久美	眼科学講座	500,000	補委 日本学術振興会
微細血管系としての海綿体の恒常性と異常に関する包括的解析	山田 源	形成外科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
化学療法とPD-1/L1阻害剤併用における相乗機序の解明と新規治療標的の探索	小澤 雄一	内科学第三講座	700,000	補委 日本学術振興会
未熟児におけるヨウ素摂取量の検討	土橋 智弥	小児科学講座	200,000	補委 日本学術振興会
肺癌生検組織を用いた次世代診断技術開発:人工知能病理診断と包括的1細胞遺伝子解析	北野 雅之	内科学第二講座	900,000	補委 日本学術振興会
AXLを標的とした肺がん個別化医療実現に向けた基盤研究	山本 信之	内科学第三講座	900,000	補委 日本学術振興会
進行性糖尿病性腎臓病の病態におけるステイニルロイコトリエン受容体1の役割の解明	北田 宗弘	腎臓内科学講座	800,000	補委 日本学術振興会
強皮症・皮膚線維化疾患における特異的・機能的piRNAの研究	神人 正寿	皮膚科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
肥満・糖尿病におけるIRE1 α に着目したUPR制御機構解明と新規治療戦略	森田 修平	内科学第一講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
腫瘍周囲の免疫環境に着目した新規個別化免疫療法の開発	松田 健司	外科学第二講座	800,000	補委 日本学術振興会
運動療法ストレスと薬物輸送体発現振動制御による新規シクロノイズド化学療法の開発	岡田 健一	外科学第二講座	1,500,000	補委 日本学術振興会
革新的腫瘍細胞ワクチンを核とした複合免疫療法の開発	宮本 篤	外科学第二講座	800,000	補委 日本学術振興会
IL-17とがん幹細胞ニッチをターゲットにした新規分子標的療法の開発	早田 啓治	外科学第二講座	900,000	補委 日本学術振興会
神経線維をターゲットとした術後痛に対する新規治療法の開発	谷奥 匡	麻酔科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
新規分子を標的とした痒み治療薬の開発に向けた末梢神経における痒み伝達の解明	丸山 智之	麻酔科学講座	800,000	補委 日本学術振興会
子どもロコモの実態調査と効果的な介入方法の調査	木戸 勇介	整形外科科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
変性椎間板マウスモデルにおける脊索細胞注入の髄核修復効果	村上 公英	整形外科科学講座	200,000	補委 日本学術振興会
胎盤形成不全における小胞体シャペロン-カルネキシンの発現と病態意義の解明	松川 仁登美	産科・婦人科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
ヘッジホッグ/ネトリンによる上皮-神経相互作用の解明と神経麻痺性角膜症の治療戦略	雑賀 司珠也	眼科学講座	800,000	補委 日本学術振興会

リンパ浮腫発症における補体の役割とその分子機構	朝村 真一	形成外科学講座	800,000	補委	日本学術振興会
筋肉内静脈奇形モデルを用いた新規治療法の開発	和田 仁孝	形成外科学講座	700,000	補委	日本学術振興会
脊柱靭帯骨化疾患 ～ゲノム解析による疾患概念の確立～	長田 圭司	整形外科科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
新規超音波造影剤と高密度焦点式超音波(HIFU)を用いた低侵襲治療システムの開発	蘆田 玲子	内科学第二講座	900,000	補委	日本学術振興会
後天性嚢胞腎を背景として発生する腎細胞癌の前駆病変の解明	小島 史好	人体病理学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
マルチオミクス解析による免疫チェックポイント阻害剤低感受性肺癌の効果予測因子同定	赤松 弘朗	内科学第三講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
進行癌に対する次世代抗体薬投与時サイトカインプロファイル緊急網羅的解析モデル探索	清水 俊雄	内科学第三講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
神経疾患における補体関与バイオマーカー探索	宮本 勝一	脳神経内科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
新しい液体塞栓物質を用いたglue in plug法の有用性に関する検討	生駒 顕	放射線医学講座	200,000	補委	日本学術振興会
酵母由来ザイモサンによる乳幼児に適した経鼻型ノロウイルスワクチンの開発	徳原 大介	小児科学講座	800,000	補委	日本学術振興会
過飽和酸素血の冠動脈内投与によるno reflow現象抑制効果の検討	猪野 靖	内科学第四講座	1,700,000	補委	日本学術振興会
偏光感受性OCTを用いた選択的PPAR α モジュレーターによるプラーク安定化の解明	尾崎 雄一	内科学第四講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
KRAS変異陽性肺癌における次世代個別化医療の実現へ向けた基盤研究	洪 泰浩	バイオメディカルサイエンスセンター	1,200,000	補委	日本学術振興会
小細胞肺癌における網羅的RNA解析と機械学習による免疫療法奏功予測パネルの開発	藤本 大智	内科学第三講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
ケロイド特異的融合遺伝子の同定および機能解析	村岡 響子	皮膚科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
神経精神ループス患者における脳脊髄液中の自己抗体・液性因子が脳活動に及ぼす影響	藤井 隆夫	リウマチ・膠原病科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
神経精神ループスにおける生理活性物質不均衡、B細胞分化異常を介した病態機構の解明	岩田 慈	リウマチ・膠原病科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
ウイルス感染に伴う侵襲性肺炎球菌感染症におけるTRPV4チャネルの関与と治療応用	保富 宗城	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座	900,000	補委	日本学術振興会
シンバイオテックスによる膵癌微小環境変化をもたらす新規複合的免疫療法の開発	川井 学	外科学第二講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
改変型XCL1産生腫瘍ワクチンを用いた革新的新規複合免疫療法の開発研究	勝田 将裕	外科学第二講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
オルガノイドを用いたメチル基転移酵素による肝内胆管癌リンパ節転移の機序解明	速水 晋也	外科学第二講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
急性大動脈解離の解離腔補強のためのマイクロニードルを有する人工中膜の開発	西村 好晴	外科学第一講座	1,500,000	補委	日本学術振興会
臨床応用を目指した痛みの遺伝子治療の基盤的研究開発	神田 浩嗣	麻酔科学講座	800,000	補委	日本学術振興会
新規分子を標的とした化学療法誘発性神経障害における痛み機序の解明と	平井 亜葵	麻酔科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
止血TAE手技に対する血管収縮薬の塞栓阻害作用に着目した外傷死亡要因の新規解明	米満 尚史	救急・集中治療医学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
内皮グリコカリックス障害を起こす機序の解明およびあらたな輸液戦略の開発	山崎 景子	麻酔科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会

蘇生後脳症における早期脳障害バイオマーカーの網羅的探索	川嶋 秀治	救急・集中治療医学講座	600,000	補委	日本学術振興会
健康寿命の延伸を目的としたデュアルタスクトレーニングの有効性の解明	延與 良夫	整形外科科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
変形性膝関節症の疼痛増強におけるTRPA1チャネルの役割とその抑制効果	玉井 英伸	整形外科科学講座	260,000	補委	日本学術振興会
胎盤形成におけるミトコンドリア-小胞体相互作用メカニズムの解明	岩橋 尚幸	産科・婦人科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
扁桃病巣疾患におけるパラインフルエンザ菌特異的単一リンパ球の同定と病態関与の検証	金子 富美恵	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
反復性中耳炎における肺炎球菌ワクチン不応答集団の同定と腸内細菌叢の役割解明	武田 早織	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
骨吸収因子に着目したエナメル上皮腫治療の新戦略	松村 達志	歯科口腔外科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
無荚膜型肺炎球菌の病原性解明と全菌体型肺炎球菌ワクチンによる予防効果の検証	酒谷 英樹	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
HMGB1およびその関連物質による骨格筋再生治療法の検討	村田 顕也	教育研究開発センター	1,400,000	補委	日本学術振興会
脳領域間の因果関係を考慮に入れたネットワーク解析によるうつ病のrTMS治療機序の解明	石田 卓也	神経精神医学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
メタボ・フレイルによる慢性炎症と脳画像によるMCIの認知症への移行指標の確立	山田 信一	神経精神医学講座	400,000	補委	日本学術振興会
統合失調症における興奮性-抑制性神経伝達の不均衡からみたバイオマーカー開発	山口 泰成	神経精神医学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
微細血管塞栓療法による変形性膝関節症モデルでの局所炎症と異常神経の退縮機序の解明	浅井 宣樹	整形外科科学講座	1,900,000	補委	日本学術振興会
小児IgA腎症、紫斑病性腎炎における糖鎖異常IgA1及びその特異的IgGの関与	島 友子	小児科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
慢性炎症に着目したがんサバイバー特有の心血管疾患発症機序の解明	樽谷 玲	内科学第四講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
予測統計に基づく心不全患者におけるオンライン診療及び遠隔診療の安全性への検証	山野 貴司	内科学第四講座	2,500,000	補委	日本学術振興会
COPD患者の脊柱筋に関する実践的研究	中西 正典	内科学第三講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
自己炎症性疾患・中條-西村症候群におけるmicroRNAの役割の解明	国本 佳代	皮膚科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
遺伝子再構成障害を背景に発症する炎症性腸疾患の分子機序の解明	田村 志宣	救急・集中治療医学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
全身性エリテマトーデスにおけるB細胞-補体連関の機序解明と病態制御への展開	松宮 遼	リウマチ・膠原病科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
膵β細胞糖毒性の要因となる転写因子の同定	松岡 孝昭	内科学第一講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
ネオアンチゲン遺伝子導入iPS-樹状細胞を用いた複合がん免疫療法の開発	尾島 敏康	外科学第二講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
確実な肺瘻閉鎖と癒着回避を両立した肺瘻閉鎖用マイクロニードル型シートの開発	大橋 拓矢	外科学第一講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
内皮グリコカリックス障害に対する麻酔薬による回復効果の機序の検討	時永 泰行	麻酔科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
辺縁系脳領域に着目した痛覚変調性疼痛に特異的な神経基盤の解明	黒崎 弘倫	麻酔科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
神経特異性ベクターシステムを利用した痛みの遺伝子治療の実用化基盤の構築	神田 恵	麻酔科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会

ヒストン変異を有するグリオーマの臨床・病理学的解析	深井 順也	脳神経外科学講座	2,600,000	補委	日本学術振興会
前帯状皮質、島皮質におけるケタミンの疼痛抑制メカニズムの解明	山中学	整形外科科学講座	2,100,000	補委	日本学術振興会
不動痛はROSによる脊髄内TRPA1チャネル活性化を介した中枢性感作が関与する	西尾 尚子	整形外科科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
地域住民コホート縦断研究による脊柱後弯症の長期自然経過の解明	高見 正成	整形外科科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
尿路結石形成における間質線維芽細胞の役割の解明	山下 真平	泌尿器科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
免疫寛容誘導分子を標的とした卵巣癌におけるAAV-CRISPR/Cas9療法の確立	八幡 環	産科・婦人科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
細胞内脂肪滴蓄積を標的とした子宮頸癌の新たな予後予測と治療戦略	西岡 香穂	産科・婦人科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
リキッドバイオプシーによる卵巣癌の時間的空間的不均一性の克服とMRD検出の治療戦略	井篁 一彦	産科・婦人科学講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
局所進行頭頸部癌の低酸素腫瘍微小環境に及ぼす嫌気性菌関与の解明	京 雪楓	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
嗅上皮再生における一過性受容体電位TRPチャネル/Sonic Hedgehogの役割の解明	河野 正充	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
テネシンXによる成長因子活性化を標的とした炎症性角膜疾患の新規治療戦略の確立	住岡 孝吉	眼科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
Down症候群の移行期医療の課題解明および情報共有ツールの開発	杉本 卓也	小児科学講座	300,000	補委	日本学術振興会
受動喫煙による鼻腔におけるムチン産生の変化と肺炎球菌宿主間伝播への影響の解明	志賀 達也	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
小中学生における姿勢異常の実態および関連する生活習慣の解明	大西 麻紀子	整形外科科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
運動トレーニングによる骨格筋 α Klothoの発現増加とその意義の解明	園生 智広	腎臓内科学講座	2,200,000	補委	日本学術振興会
心臓突然死における冠動脈狭窄の無い急性心筋梗塞の法医学的診断法の構築	田中 篤	内科学第四講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
社会経験の剥奪による前頭前野の機能障害の起点となる神経細胞の解明	岡村 和哉	神経精神医学講座	327,777	補委	日本学術振興会
生体内コレステロール結晶の三次元構造解析によるプラーク破裂発症機序の解明	片山 陽介	内科学第四講座	600,000	補委	日本学術振興会
角膜実質創傷治癒での細胞外基質蛋白質ルミカンの機能解析に基づいた新規治療戦略	鈴木 映美	眼科学講座	700,000	補委	日本学術振興会
難治性リンパ浮腫の発症におけるTRPチャネルの関与とその分子機構	上野 一樹	形成外科学講座	500,000	補委	日本学術振興会
計算処理に関する大脳皮質活動のダイナミズムの解明	中井 康雄	脳神経外科学講座	200,000	補委	日本学術振興会
マインドフルネス瞑想によるパーキンソン病の衝動性制御効果の実証	高 真守	脳神経内科学講座	300,000	補委	日本学術振興会
悪性髄膜腫におけるエピジェネティック異常をターゲットとする新規治療法の確立	佐々木 貴浩	脳神経外科学講座	400,000	補委	日本学術振興会
高血糖に着目した急性心筋梗塞における再灌流後心筋内出血の機序解明	太田 慎吾	内科学第四講座	100,000	補委	日本学術振興会
膵 β 細胞特異的Cox6a2発現抑制による糖尿病発症機序の解明	浦木 進丞	内科学第一講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
大規模一般住民コホートによるキーンベック病の疫学調査 -ROAD study-	下江 隆司	整形外科科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会

異常感覚克服のための各種触覚機械受容器イオンチャネルの同定	菅根勝 真弓	整形外科科学講座	100,000	補委	日本学術振興会
成人脊椎変形矯正固定術後の人工股関節脱臼リスク評価	西山 大介	整形外科科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
腎癌微小環境における乳酸シグナルの解明	楠本 浩貴	泌尿器科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
子宮頸癌FFPE組織を用いた16s rRNAマイクロバイオーム解析	小林 彩	産科・婦人科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
スフィンゴシン・1-リン酸3シグナルの脈絡膜新生血管と線維化における役割の解明	岩西 宏樹	眼科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
マイクロニードル技術を利用した局所薬物送達療法による新しい褥瘡治療法の構築	横山 真央	内科学第四講座	1,700,000	補委	日本学術振興会
ホルモンに着目した高齢心不全に対する心臓リハビリテーションの多面的効果の機序解明	森本 順子	内科学第四講座	200,000	補委	日本学術振興会
膵β細胞における転写因子BHLHA15/小胞体膜蛋白CCPG1のUPR制御機構	岸本 祥平	内科学第一講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
冠動脈スティフネスパラメータβの測定方法の確立および心血管イベントの予測	高畑 昌弘	内科学第四講座	500,000	補委	日本学術振興会
胎盤一心筋連関に着目した周産期心筋症発症機序の解明	藤田 澄吾子	内科学第四講座	200,000	補委	日本学術振興会
ABL-IRE1α経路に着目した多発性骨髄腫のUPR制御機構解明と新規治療薬開発	山下 友佑	血液内科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
オルガノイドを用いたネオアンチゲンパルスiPS細胞由来樹状細胞療法の基礎的研究	北谷 純也	外科学第二講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
樹状細胞サブセットに注目した大腸癌新規がん免疫療法の開発	水本 有紀	外科学第二講座	900,000	補委	日本学術振興会
癌関連線維芽細胞の細胞老化を標的とするがん微小環境制御と胃癌腹膜播種治療への応用	竹内 昭博	外科学第二講座	800,000	補委	日本学術振興会
腰部発育性脊柱管狭窄の概念確立を目指す地域住民コホート研究	岩橋 弘樹	整形外科科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
スフィンゴシン1リン酸受容体3を標的とした新しい角膜感覚神経の再生治療戦略の樹立	安田 慎吾	眼科学講座	900,000	補委	日本学術振興会
Rhoキナーゼ阻害薬による上皮幹細胞に注目した神経麻痺による角膜症の新規治療戦略	高田 幸尚	眼科学講座	600,000	補委	日本学術振興会
日本人のPistol Grip Deformity有所見率と関連因子～縦断研究	谷口 隆哉	整形外科科学講座	700,000	補委	日本学術振興会
超音波内視鏡による新たな慢性膵炎診断・進行度評価と線維化が及ぼす機能異常の解明	山下 泰伸	内科学第二講座	600,000	補委	日本学術振興会
ミトコンドリア機能に着目した急性冠症候群発症抑制における新規治療戦略の開発	寺田 幸誠	内科学第四講座	2,500,000	補委	日本学術振興会
尿毒症状態における免疫障害に対するMg負荷の効果に関する研究	田中 佑典	腎臓内科学講座	1,800,000	補委	日本学術振興会
侵襲性肺炎球菌感染におけるスフィンゴシン1リン酸受容体の役割の解明	村上 大地	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
変異コルチコステロイド結合グロブリン蛋白の機能解析と副腎皮質機能低下症への影響	中尾 友美	内科学第一講座	700,000	補委	日本学術振興会
脊髄後角でのメソレキサートの鎮痛作用機序の解明-パッチクランプ法による解析	太地 良	整形外科科学講座	1,800,000	補委	日本学術振興会
成人脊柱変形手術後の股関節症:新たな疾患概念と予防法の確立にむけて	神前 拓平	整形外科科学講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧腎症胎盤でのNotchシグナルの発現が血管内皮障害に及ぼす影響の解明	南條 佐輝子	産科・婦人科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会

脈管系の可視化とソノレーション法の併用による革新的なリンパ浮腫治療法の開発	久米川 真治	形成外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
リキッドバイオプシーを用いた濾胞性リンパ腫病勢進展の病態解明	堀 善和	血液内科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
ユビキチンプロテアソーム系を介した新規iPS細胞由来樹状細胞ワクチン療法の開発	富永 信太	外科学第二講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
メチル化酵素をターゲットとした肝細胞癌増殖メカニズムの解明	堀 雄哉	外科学第二講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
膵癌オルガノイドを用いたヒストン脱メチル化を介する癌増殖・浸潤メカニズムの解明	黒岩 英倫	外科学第二講座	900,000	補委	日本学術振興会
inflammatory CAFs網羅的遺伝子解析による膵癌抗癌剤抵抗性分子メカニズムの解明	松本 恭平	外科学第二講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
地域住民を対象とした生活習慣病予防等健康づくりの推進のための栄養・運動・休養複合型プログラム(対面・オンラインハイブリット型)の開発に向けた基盤研究	山田 宏	整形外科科学講座	15,210,000	補委	厚生労働省
p53凝集体形成に着目したp53変異卵巣癌の新規治療戦略の確立	岩橋 尚幸	産科・婦人科学講座	500,000	補委	公益社団法人日本婦人科腫瘍学会
ヒトおよびマウスにおける嗅覚・聴覚障害と認知機能に及ぼすニコチンの影響に関する研究	保富 宗城	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,000,000	補委	喫煙科学研究財団
ヒストンメチル化酵素SMYD2による肝内胆管癌リンパ節転移制御機構と分子メカニズムの解明	速水 晋也	外科学第二講座	2,000,000	補委	公益財団法人武田科学振興財団
p53凝集体形成に着目したp53変異卵巣癌の新規治療戦略の推進	岩橋 尚幸	産科・婦人科学講座	2,000,000	補委	公益財団法人武田科学振興財団
RAPNIにおける術中・術後尿中酸素分圧と術後AKI発症率との関連性に関する前向き研究	山下 真平	泌尿器科学講座	500,000	補委	一般社団法人日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会
アトピー性皮膚炎におけるγRNAの研究	神人 正寿	皮膚科学講座	1,000,000	補委	レオファーマ株式会社
尿と血漿のCell-free DNAを用いた化学療法抵抗性クローン検出と病態解明	細井 裕樹	血液内科学講座	500,000	補委	一般財団法人日本血液学会
ロイド治療至適期間を検討するランダム化比較試験	藤本 大智	内科学第三講座	1,000,000	補委	特定非営利活動法人日本肺癌学会
胆道閉塞を伴う切除不能胆道癌に対する内視鏡ラジオ波焼灼療法併用ゲムシダピン+シスプラチン+デュルバルマブ治療の安全性・有用性を評価する第Ⅱ相試験	山下 泰伸	内科学第二講座	3,000,000	補委	公益財団法人臨床薬理研究振興財団
皮膚疾患のメカニズムの研究	神人 正寿	皮膚科学講座	500,000	補委	鳥居薬品株式会社
TRPV4シグナル抑制によるマウス神経麻痺性角膜症での角膜実質炎症の制御	雑賀 司珠也	眼科学講座	200,000	補委	日本アルコン株式会社
S1Pr1単独またはS1Pr3両者の阻害によるマウス脈絡膜新生血管及び繊維瘢痕化の制御	岩西 宏樹	眼科学講座	200,000	補委	日本アルコン株式会社
慢性腎臓病の予後改善を目指した新たな治療戦略の構築に関する研究	荒木 信一	腎臓内科学講座	500,000	補委	鳥居薬品株式会社
胆道癌における内視鏡下ラジオ波焼灼術による免疫活性の検討	山下 泰伸	第二内科	500,000	補委	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
脈管異常の皮膚病変に対するシロリムスゲルの多施設共同、プラセボ対照、二重盲検、無作為化、並行群間比較試験	神人 正寿	皮膚科学講座	50,700,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新規痛み関連分子Tmem45bに注目した画期的な慢性疼痛治療薬開発に向けた研究	川股 知之	麻酔科学講座	9,100,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Tatsuya Ishibashi, Shuhei Morita, Hiroto Furuta, et al	内科学第一講座	Renoprotective potential of concomitant medications with SGLT2 inhibitors and renin-angiotensin system inhibitors in diabetic nephropathy without albuminuria: a retrospective cohort study	Sci Rep, 2023Sep, 13(1):16373	Original Article
2	Yasushi Furukawa, Keiko Tanaka, Osamu Isozaki, et al	内科学第一講座	Prospective Multicenter Registry-Based Study on Thyroid Storm: The Guidelines for the Management from Japan are Useful	The journal of clinical endocrinology and metabolism, 2024Mar, dgae124	Original Article
3	Shuhei Morita, Shinsuke Uraki, Hiroyuki Ariyasu, et al	内科学第一講座	Profiling of Unfolded Protein Response Markers and Effect of IRE1 α -specific Inhibitor in Pituitary Neuroendocrine Tumor	Endocrinology, 2024 Feb, 165(4):bqae008	Original Article
4	Yamashita Yasunobu, Masayuki Kitano	内科学第二講座	Role of contrast-enhanced harmonic endoscopic ultrasonography (EUS) and EUS elastography in pancreatic lesions	Clin Endosc, 2024Mar, 57(2):164-174	Review
5	Reiko Ashida, Masayuki Kitano, Kawabata Kenichi, et al	内科学第二講座	Novel treatment system using endoscopic ultrasound-guided high-intensity focused ultrasound: A proof-of-concept study	Pancreatology, 2024Feb, 24(1):88-92	Original Article
6	Takashi Tamura, Masayuki Kitano, Rei Ashida, et al	内科学第二講座	K-ras gene mutation analysis to diagnosis pancreatic adenocarcinoma from endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition; a systematic review and meta-analysis	Pancreatology, 2024Feb, 24(1):78-87	Review
7	Yasunobu Yamashita, Toshio Shimokawa, Reiko Ashida, et al	内科学第二講座	Protocol for a Multi-Center Confirmatory Trial to Evaluate the Differential Diagnostic Performance of Contrast-Enhanced Ultrasonography Using Perflubutane in Patients with a Pancreatic Mass: A Multicenter Prospective Study	Diagnostics (Basel), 2024Jan, 6:14(2):130.	Original Article
8	Takashi Tamura, Toshio Shimokawa, Yasunobu Yamashita, et al	内科学第二講座	Uncovered versus covered expandable metal stents for malignant gastric outlet obstruction caused by intrinsic and extrinsic tumors: meta-analysis and meta-regression analysis	Surg Endosc, 2023Apr, 37(4):2496-2507	Review
9	Yasunobu Yamashita, Hirofumi Yamazaki, Yuki Kawaji, et al	内科学第二講座	Utility of a partially covered metal stent for salvage sealing therapy for bleeding caused by duodenal invasion of pancreatobiliary cancers: Case series	DEN Open, 2023 Jun, 4(1):e253	Case report
10	Yasunobu Yamashita, Reiko Ashida, Takaaki Tamura, et al	内科学第二講座	Novel Technique of Endoscopic Ultrasonography for the Differential Diagnosis of Gallbladder Lesions and Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms: A Single-Center Prospective Study	Diagnostics (Basel), 2023 Jun, 13(13):2132	Original Article

小計
10件

11	Takashi Tamura, Takuo Yamai, Norimitsu Uza,et al	内科学第二講座	Adverse events of self-expandable metal stent placement for malignant distal biliary obstruction: A large multicenter study	Gastrointest Endosc, 2024Jan, 99(1):61-72.e8	Original Article
12	Yasunobu Yamashita, Reiko Ashida, Fumiyoshi Kojima,et al	内科学第二講座	Utility of contrast-enhanced harmonic endoscopic ultrasonography for prediction of pathological response after neoadjuvant chemotherapy in patients with pancreatic cancer	Pancreatology, 2023 Dec, 23(8):1014-1019	Original Article
13	Shinya Taki, Mikitaka Iguchi, Takao Maekita,et al	内科学第二講座	Endoscopic N-butyl-2-cyanoacrylate and ethanolamine oleate injection is equivalent to balloon-occluded retrograde transvenous obliteration for preventing gastric variceal bleeding	Surg Endosc, 2023 Aug, 37(8):6008-6014	Original Article
14	Shinya Taki, Mikitaka Iguchi, Kazuhiro Fukatsu,et al	内科学第二講座	Multicenter randomized control study of the efficacy of SO clip in colorectal endoscopic submucosal dissection (ESD). (SO clip study in colorectal ESD): Randomized controlled trial	Medicine (Baltimore), 2023 May, 102(19):e33756	Original Article
15	Ryo Shimizu, Yoshiyuki Ida, Masayuki Kitano	内科学第二講座	Predicting Outcome after Percutaneous Ablation for Early-Stage Hepatocellular Carcinoma Using Various Imaging Modalities	Diagnostics (Basel), 2023 Sep, 13(19):3058	Review
16	Hirofumi Yamazaki, Yasunobu Yamashita, Toshio Shimokawa,et al	内科学第二講座	Endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy versus choledochoduodenostomy for malignant biliary obstruction: A meta-analysis	DEN Open, 2023 Jul, 4(1):e274	Review
17	Ryota Shibaki, Daichi Fujimoto, Tsukasa Nozawa,et al	内科学第三講座	Machine learning analysis of pathological images to predict one-year progression-free survival of immunotherapy in patients with small-cell lung cancer	J Immunother Cancer, 2024 Feb, 12(2):e007987	Original Article
18	Eriko Murakami, Hiroaki Akamatsu, Shunsuke Teraoka,et al	内科学第三講座	Mannitol versus furosemide in patients with thoracic malignancies who received cisplatin-based chemotherapy using short-hydration: A randomized phase II trial	Cancer Med, 2024Feb, 13(4):e6839	Original Article
19	Shunsuke Teraoka, Hidetoshi Hayashi, Yasushi Goto,et al	内科学第三講座	Long-Term Efficacy and Safety of Lorlatinib in Japanese Patients With ALK-Positive Advanced NSCLC—A Brief Report From the CROWN Study	JTO Clin Res Rep, 2024 Jan, 5(3):100632	Original Article
20	Toshio Shimizu, Jacob Sands, Kiyotaka Yoh,et al	内科学第三講座	First-in-Human, Phase I Dose-Escalation and Dose-Expansion Study of Trophoblast Cell-Surface Antigen 2-Directed Antibody-Drug Conjugate Datopotamab Deruxtecan in Non-Small-Cell Lung Cancer: TROPION-PanTumor01	J Clin Oncol, 2023 Oct, 41(29):4678-4687	Original Article

小計
10件

21	Toshiaki Takakura, Hiroaki Kanemura, Kazuko Saka,et al	内科学第三講座	Efficacy of Crizotinib After Entrectinib Resistance Due to MET Polysomy in ROS1-Rearranged NSCLC: A Case Report	JTO Clin Res Rep, 2023 May, 4(6):100523	Case report
22	Shingo Ota, Yasuhiro Izumiya, Ryoko Kitada,et al	内科学第四講座	Diagnostic significance of paradoxical left ventricular hypertrophy in detecting cardiac amyloidosis	Int J Cardiol Heart Vasc, 2023 Dec, 49:101279	Original Article
23	Manabu Kashiwagi, Toshiyasu Ojima, Keiji Hayata ,et al	内科学第四講座	Impact of pulmonary vein anatomy and left atrial size on postoperative atrial fibrillation after esophagectomy for esophageal cancer	Esophagus, 2023 Oct, 20(4):626-634	Original Article
24	Manabu Kashiwagi, Yoshimitsu Hirai, Akio Kuroi,et al	内科学第四講座	Relationship between postoperative atrial fibrillation and its recurrence after lung resection	Surg Today, 2023 Oct, 53(10):1139-1148	Original Article
25	Yuichi Ozaki, Manabu Kashiwagi, Toshio Imanishi,et al	内科学第四講座	Prognostic value of Toll-like receptor 4 on human monocyte subsets combined with computed tomography-adapted Leaman score assessing coronary artery disease	Coronary artery disease, 2023 Jul, 13(1):11544	Original Article
26	Kosei Terada, Noriyuki Wakana, Takashi Kubo,et al	内科学第四講座	Clinical outcomes of acute myocardial infarction arising from non-lipid-rich plaque determined by NIRS-IVUS	Sci Rep, 2023 Jul, 13(1):11544	Original Article
27	Manabu Kashiwagi, Akio Kuroi, Natsuki Higashimoto,et al	内科学第四講座	Impact of tag index and local electrogram for successful first-pass cavotricuspid isthmus ablation	Heart Rhythm O2, 2023 Apr, 4(6):350-358	Original Article
28	Keisuke Satogami, Yosuke Katayama, Yuichi Ozaki,et al	内科学第四講座	Long-term risk stratification for hospitalized patients with acute heart failure at a single rural cardiovascular centre	ESC Heart Fail, 2023 Jun, 10(3):1717-1725	Original Article
29	Yuichi Ozaki, Motoki Taniguchi, Yosuke Katayama,et al	内科学第四講座	Which is more useful for predicting no-reflow phenomenon? Insights from optical coherence tomography and coronary computed tomography	Cardiovascular intervention and therapeutics, 2023 Apr, 38(2):246-247	Case report
30	Motoki Taniguchi, Yuichi Ozaki, Yosuke Katayama,et al	内科学第四講座	Impact of Upper Arm Prolonged Occlusion on Radial Artery Diameter Before Coronary Angiography in Patients With Coronary Artery Disease	Cardiovasc Revasc Med, 2023 Jun, 51:38-42	Original Article

小計
10件

31	Keisuke Satogami, Yosuke Katayama, Yuichi Ozaki,et al	内科学第四講座	Characteristics of Discharged Elderly Patients with Acute Heart Failure Followed by Board-Certified-Cardiologists in a Rural Area of Japan	Int Heart J, 2023 Nov, 64(6):1105-1112	Original Article
32	Akira Taruya, Tsuyoshi Nishiguchi, Shingo Ota,et al	内科学第四講座	Low Energy Intake Diagnosed Using the Harris-Benedict Equation Is Associated with Poor Prognosis in Elderly Heart Failure Patients	J Clin Med, 2023 Nov, 12(22):7191	Original Article
33	Natsuki Higashimoto, Manabu Kashiwagi, Akio Kuroi,et al	内科学第四講座	Very-late-phase perforation of the septum and left ventricle by a passive fixation pacemaker lead: Case report	HeartRhythm Case Rep, 2023 Aug, 9(10):741-744	Case report
34	Mai Nakai, Yuichi Ozaki, Hironori Kitabata,et al	内科学第四講座	Postpartum spontaneous coronary artery dissection recovered by coronary artery bypass grafting supported with Impella device	J Invasive Cardiol, 2023 Aug, 35(8):E75-E83	Case report
35	Kosuke Osawa, Shuto Yamamoto, Yukiko Yamano,et al	腎臓内科学講座	Overlapping Atypical Hemolytic Uremic Syndrome and C3 Glomerulopathy with Mutation in CFI in a Japanese Patient: A Case Report	Internal Medicine, 2024 Jun, 63(12):1777-1782	Case report
36	Hiroki Hosoi, Ken Tanaka, Ayaka Sakaki,et al	輸血部	Rituximab Monotherapy for Grade 2-3 Lymphomatoid Granulomatosis with Central Nervous System Involvement in a Patient Receiving Methotrexate for Rheumatoid Arthritis	Intern Med, 2023 Jul, 62(13):1977-1982	Case report
37	Hiroki Hosoi, Tadashi Okamura, Junya Fukai,et al	輸血部	Comparison of the outcomes of patients with primary central nervous system lymphoma between the neurosurgery and hematology/oncology departments based on the relative dose intensity of methotrexate	Oncol Lett, 2023 Sep, 26(5):469	Original Article
38	Tadashi Okamura, Shogo Murata, Kyohei Miyamoto,et al	血液内科学講座	[Veno-venous extracorporeal membrane oxygenation for capillary leak syndrome during induction chemotherapy in acute myeloid leukemia]	[Rinsho ketsueki] The Japanese journal of clinical hematology, 2024Mar, 65(3):169-174	Case report
39	Ken Tanaka, Hiroaki Miyoshi, Yusuke Yamashita,et al	血液内科学講座	Angioimmunoblastic T-Cell Lymphoma after Treatment of Classic Hodgkin Lymphoma: A Case Report	Hematology reports, 2023 Nov, 15(4):662-669	Case report
40	Hiroki Hosoi, Shiho Nakajima, Hiroshi Tsujimoto,et al	輸血部	Comparison of two apheresis systems for granulocyte collection without hydroxyethyl starch	Vox sanguinis, 2024 Jan, 119(1):62-69	Original Article

小計
10件

41	Hiroki Hosoi, Misato Tane, Hideki Kosako, et al	輸血部	[Guillain-Barré syndrome associated with Epstein-Barr virus and cytomegalovirus reactivation during treatment for chronic graft-versus-host disease after allogeneic bone marrow transplantation]	[Rinsho ketsueki] The Japanese journal of clinical hematology, 2023 Oct, 64(10):1280-1285	Case report
42	Ken Tanaka, Hiroaki Miyoshi, Keisuke Kawamoto, et al	血液内科学講座	Clinicopathological analysis of CD47 and signal regulatory protein alpha expression in myeloid sarcoma patients: CD47 expression is a favourable prognostic factor	Pathology, 2024 Feb, 56(1):81-91	Original Article
43	Hiroki Hosoi, Shotaro Tabata, Hideki Kosako, et al	血液内科学講座	IGLL5 controlled by super-enhancer affects cell survival and MYC expression in mature B-cell lymphoma	Leukemia research reports, 2024 Feb, 21:100451	Original Article
44	Shuhei Ogami, Jinsoo Koh, Katsuichi Miyamoto, et al	脳神経内科学講座	Predictive value of the neutrophil-to-lymphocyte ratio for treatment response in patients diagnosed with definite or probable autoimmune encephalitis/encephalopathy	Frontiers in neurology, 2023 Oct, 14:1284717	Original Article
45	Mai Minamino, Katsuichi Miyamoto, Motoi Kuwahara, et al	脳神経内科学講座	Characteristics of Guillain-Barré syndrome in super-elderly individuals	Journal of neurology 2023 Apr, 270(4):2191-2196	Original Article
46	Takuya Matsumoto, Jinsoo Koh, Mayumi Sakata, et al	脳神経内科学講座	Noise Pareidolia Test in Parkinson's Disease and Atypical Parkinsonian Syndromes: A Retrospective Study	Cureus, 2024 Mar, 16(3):e55436	Original Article
47	Katsuichi Miyamoto, Yoshiaki Nakayama, Hidefumi Ito	脳神経内科学講座	Recent changes in the frequency of use of apheresis and biological drugs in the treatment of neuromyelitis optica spectrum disorders	Therapeutic apheresis and dialysis, 2023 Aug, 27(4):819-820	Letter
48	Shigeru Iwata, Maiko Hajime Sumikawa, Yoshiya Tanaka	リウマチ・膠原病内科学講座	B cell activation via immunometabolism in systemic lupus erythematosus	Front Immunol, 2023 May, 14:1155421	Original Article
49	Hiroshi Tsujimoto, Yuko Tasaki, Tadafumi Yokoyama, et al	小児科学講座	Case report: A family of atypical hemolytic uremic syndrome involving a CFH::CFHR1 fusion gene and CFHR3-1-4-2 gene duplication	Frontiers in immunology, 2024 Mar, 15:1360855	Case report
50	Kentaro Hirayama, Sota Iwatani, Hajime Nakamura, et al	小児科学講座	Sustained lower bilirubin-binding affinity of albumin in extremely preterm infants	Pediatr Res, 2023 Oct, 94(4):1400-1407	Original Article

小計
10件

51	Yuko Shima, Hironobu Mukaiyama, Yu Tanaka, et al	小児科学講座	Factors related to recurrence of proteinuria in childhood IgA nephropathy	Pediatr Nephrol, 2024 Feb, 39(2):463-471	Original Article
52	Takuya Ishida, Yuko Nakamura, Saori C Tanaka, et al	神経精神科学講座	Aberrant Large-Scale Network Interactions Across Psychiatric Disorders Revealed by Large-Sample Multi-Site Resting-State Functional Magnetic Resonance Imaging Datasets	Schizophr Bull, 2023 Jul, 49(4):933-943	Original Article
53	Yoshiharu Nishimura, Kentaro Honda, Mitsuru Yuzaki, et al	外科学第一講座	Bilateral Axillary Artery Perfusion in Total Arch Replacement	The Annals of Thoracic Surgery, 2023 July, 116(1):35-41	Original Article
54	Kentaro Honda, Hideki Kunimoto, Takahiro Fujimoto, et al	外科学第一講座	Four-year outcome of the tricuspid valve leaflet augmentation and ring annuloplasty in dextrocardia	Indian journal of thoracic and cardiovascular surgery, 2023 May, 39(3):296-299	Case report
55	Kota Agematsu, Mitsugi Nagashima, Yoshiharu Nishimura	外科学第一講座	Persistent neo-aortic root dilatation and aortic valve insufficiency after arterial switch operation following prior pulmonary artery banding.	Indian J Thorac Cardiovasc Surg, 2024 Jan, 40(1):107-110	Case report
56	Kentaro Honda, Teruaki Wada, Hideki Kunimoto, et al	外科学第一講座	Simultaneous hybrid off-pump coronary artery bypass grafting and transcatheter aortic valve implantation in elderly patients	Indian J Thorac Cardiovasc Surg, 2023 Nov, 39(6):570-576	Original Article
57	Ryo Nakamura, Kyohei Miyamoto, Kaori Tsuji, et al	外科学第一講座	The impact of a preoperative nurse-led orientation program on postoperative delirium after cardiovascular surgery: a retrospective single-center observational study	J Intensive Care, 2023 May, 11(1):20	Original Article
58	Ryo Nakamura, Kentaro Honda, Hideki Kunimoto, et al	外科学第一講座	Impact of Graft Velocity on Saphenous Vein Graft Atherosclerosis after Coronary Artery Bypass Grafting	Ann Thorac Cardiovasc Surg, 2024 Jan, 30(1):23-00066	Original Article
59	Ken-Ichi Okada, Manabu Kawai, Seiko Hirono, et al	外科学第二講座	Radiological Shape of the Tumor Predicts Progression and Survival in Resected Extrahepatic Cholangiocarcinoma	J Gastrointest Surg, 2023 Jun, 27(6):1113-1121	Original Article
60	Yasuyuki Mitani, Akio Kubota, Taro Goda, et al	外科学第二講座	Laparoscopic-assisted Total Resection and Endorectal Pull-through Technique for Congenital Megarectum with Anorectal Malformation	J Pediatr Surg, 2023 Jul, 58(7):1269-1273	Review

小計
10件

61	Hiromitsu Iwamoto, Kenji Matsuda, Katsunari Takifuji, et al	外科学第二講座	Randomized controlled trial comparing cosmetic results of midline incision versus off-midline incision for specimen extraction in laparoscopic colectomy	Langenbeck's archives of surgery, 2023 Jul, 408(1):281	Original Article
62	Hideki Motobayashi, Yuji Kitahata, Ken-Ichi Okada, et al	外科学第二講座	Short-term serial circulating tumor DNA assessment predicts therapeutic efficacy for patients with advanced pancreatic cancer	Journal of cancer research and clinical oncology, 2024 Jan, 150(2):35	Original Article
63	Yoko Nakanishi, Noritsugu Kunihiro, Ryoko Umaba, et al	脳神経外科学講座	Limited dorsal myeloschisis associated with intramedullary infantile hemangioma in the conus medullaris: illustrative case	Journal of Neurosurgery: Case Lessons, 2023 Apr, 5(17):CASE22359	Case report
64	Masanari Takami, Shunji Tsutsui, Motohiro Okada, et al	整形外科科学講座	Unique Characteristics of New Bone Formation Induced by Lateral Lumbar Interbody Fusion Procedure	Spine Surgery and Related Research, 2023 Jun, 7(5):450-457	Original Article
65	Shizumasa Murata, Hiroshi Hashizume, Shunji Tsutsui, et al	整形外科科学講座	Pelvic compensation accompanying spinal malalignment and back pain-related factors in a general population: the Wakayama spine study	Scientific Reports, 2023 Jul, 13(1):11862	Original Article
66	Shizumasa Murata, Keiji Nagata, Hiroshi Iwasaki, et al	整形外科科学講座	Long-term efficacy of microendoscopic laminotomy for lumbar spinal stenosis in advanced degenerative spondylolisthesis with or without dynamic spinal instability: a propensity score-matching analysis	J Neurosurg Spine, 2024 Apr, 41(1):9-16. doi	Original Article
67	Shunji Tsutsui, Hiroshi Hashizume, Hiroshi Iwasaki, et al	整形外科科学講座	Sarcopenia at the upper instrumented vertebra is more significantly associated with proximal junctional kyphosis after long fusion for adult spinal deformity surgery than osteopenia	Journal of Clinical Neuroscience, 2023 Oct, 116:13-19	Original Article
68	Masatoshi Teraguchi, Hiroshi Hashizume, Hiroyuki Oka, et al	整形外科科学講座	Prevalence and distribution of Schmorl node and endplate signal change, and correlation with disc degeneration in a population-based cohort: the Wakayama Spine Study	European Spine Journal, 2024 Jan, 33(1):103-110	Original Article
69	Keiji Nagata, Hiroshi Hashizume, Hiroyuki Oka, et al	整形外科科学講座	Plasma pentosidine concentration is associated with ligament ossification and high-grade osteoarthritis: The ROAD study	Geriatrics & Gerontology International, 2024 Jan, 24(1):154-160	Original Article
70	Yuyu Ishimoto, Hiroshi Iwasaki, Mayumi Sonekatsu, et al	整形外科科学講座	Ultrasonography is an effective tool for the evaluation of traumatic vertebral artery injuries distal to fourth cervical vertebra in the emergency room	BMC Musculoskeletal Disord, 2023 Apr, 24(1):314	Original Article

小計
10件

71	Shizumasa Murata, Hiroshi Hashizume, Shunji Tsutsui, et al	整形外科科学講座	Publisher Correction: Pelvic compensation accompanying spinal malalignment and back pain-related factors in a general population: the Wakayama spine study	Sci Rep, 2023 Aug, 13(1):12791	Original Article
72	Shizumasa Murata, Syed Tahmid, Omar Saad, et al	整形外科科学講座	Motor Strength Measurements Obtained Using an Inexpensive Spring Tensiometer and a Clinical Dynamometer Correlated Well: A Prospective Cohort Study	World Neurosurg, 2023 Nov, 179:e187-e193	Original Article
73	Masanari Takami, Shunji Tsutsui, Keiji Nagata, et al	整形外科科学講座	Risk factors of postoperative coronal malalignment following long-segment spinal fusion surgery in which multilevel lateral lumbar interbody fusion was used for degenerative lumbar kyphoscoliosis	J Neurosurg Spine, 2023 Oct, 40(1):70-76	Original Article
74	Kazuhisa Uemura, Katsuya Okuda, Kazuki Ueno, et al	形成外科学講座	The 'Invisible Lazy-T' Procedure for Correction of Medial Ectropion	J Craniofac Surg, 2023 Jul-Aug, 34(5):1540-1542	Original Article
75	Takahito Wakamiya, Takuya Fujimoto, Takahito Endo, et al	泌尿器科学講座	Myosteatorsis as a novel predictor of new-onset diabetes mellitus after kidney transplantation	Int J Urol, 2024 Jan, 31(1):39-44	Original Article
76	Shimpei Yamashita, Takuma Wada, Ryusuke Deguchi, et al	泌尿器科学講座	Prognostic significance of pre-treatment albumin-bilirubin grade in metastatic urothelial carcinoma receiving pembrolizumab	Jpn J Clin Oncol, 2023 Aug, 53(9):845-850	Original Article
77	Shimpei Yamashita, Tadashi Tanioku, Ryusuke Deguchi, et al	泌尿器科学講座	In vitro comparison of simulated intrapelvic pressure in an artificial kidney model during retrograde intrarenal surgery among various single-use ureteroscopes	International journal of urology, 2024 Feb, 31(2):177-181	Original Article
78	Yasuo Kohjimoto, Shimpei Yamashita, Sohei Iwagami, et al	泌尿器科学講座	hinotoriTM vs. da Vinci®: propensity score-matched analysis of surgical outcomes of robot-assisted radical prostatectomy	Journal of robotic surgery, 2024Mar, 18(1):130	Original Article
79	Shimpei Yamashita, Shuzo Hamamoto, Junya Furukawa, et al	泌尿器科学講座	Association of lung immune prognostic index with survival outcomes in patients with metastatic renal cell carcinoma treated with nivolumab plus ipilimumab	Japanese journal of clinical oncology, 2024Jan, 54(6):722-729	Original Article
80	Ryusuke Deguchi, Yasuo Kohjimoto, Yohei Maruyama, et al	泌尿器科学講座	Efficacy of Bisphosphonate for Urolithiasis Complicated by Osteogenesis Imperfecta: A Case Report	Intern Med, 2024 Feb, 63(3):439-442	Original Article

小計
10件

81	Takayoshi Sumioka, Ken-Ichi Matsumoto, Shizuya Saika, et al	眼科学講座	Tenascins and osteopontin in biological response in cornea	The ocular surface, 2023 Jul, 131-149	Original Article
82	Eimi Suzuki, Takayoshi Sumioka, Shizuya Saika, et al	眼科学講座	Impaired healing in an incision wound in corneal stroma in a lumican-null mouse	The ocular surface, 2023 Oct, 30:286-294	Original Article
83	Yuta Usui, Hiroki Iwanishi, Takayoshi Sumioka, et al	眼科学講座	Engineered Knockout of TRPA1 Inhibits Laser-Induced Choroidal Neovascularization Along With Associated TGF β 1 Expression and Neutrophil Infiltration	Laboratory investigation, 2023 Nov, 103(11):100256	Original Article
84	Daichi Murakami, Takahito Kimura, Masamitsu Kono, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	Case report: Cochlear implantation was effective for progressive bilateral severe hearing loss associated with Kawasaki disease	Front Pediatr, 2023 Aug, 11:1199240	Case report
85	Masamitsu Kono, Hideki Sakatani, Tetsuya Kinoshita, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	Bactericidal effect of lasclufloxacin on HEp-2 cell-internalized group A Streptococcus	Journal of infection and chemotherapy, 2023 Apr, 29(4):401-406	Original Article
86	Kodai Fukuda, Tetsuo Sonomura, Nobuyuki Higashino, et al	放射線医学講座	Duodenal bleeding outside covered stents identified by selective computed tomography during arteriography that was successfully treated by embolization: A case report	Radiol Case Rep, 2023 Jul, 18(10):3395-3399	Case report
87	Akira Ikoma, Tetsuo Sonomura, Nobuyuki Higashino, et al	放射線医学講座	Feasibility of the Glue-in-Plug Technique Using a Novel Liquid Embolic Material in a Swine Model	J Vasc Interv Radiol, 2023 Dec, 34(12):2233-2239	Original Article
88	Ryuta Okuhira, Nobuyuki Higashino, Tetsuo Sonomura, et al	放射線医学講座	Balloon-Assisted Portal Vein Embolization Using n-Butyl-2-Cyanoacrylate-Lipiodol-Iopamidol Mixture in Swine: A Comparison of 2 Formulations	Journal of vascular and interventional radiology, 2024 Mar, 35(3):462-468	Original Article
89	Ryota Tanaka, Tetsuo Sonomura, Masataka Koike, et al	放射線医学講座	Comparison of Renal Damage Following Renal Artery Embolization with Three Different Embolic Mixtures in Swine	Interventional radiology, 2023 Sep, 8(3):154-160.	Original Article
90	Nobuyuki Higashino, Tetsuo Sonomura, Akira Ikoma, et al	放射線医学講座	Balloon-Assisted Arterial Embolization of Pseudoaneurysms Using NBCA-Lipiodol-Iopamidol Mixture in Two Clinical Cases	Cardiovasc Intervent Radiol, 2024 Feb, 47(2):268-270	Letter

小計
10件

91	Atsufumi Kamisako, Akira Ikoma, Takayuki Suzuki, et al	放射線医学講座	Successful retrieval of a foreign body in an infant's right pulmonary artery using the new boomerang loop-snare technique: A case report	Radiol Case Rep, 2024 Feb, 19(5):1965-1969	Case report
92	Takamasa Hashizaki, Yukihide Nishimura, Tokio Kinoshita, et al	リハビリテーション医学講座	Case report: Rehabilitation course in thrombocytopenia, anasarca, fever, reticulin fibrosis/renal failure, and organomegaly syndrome complicated by cerebral infarction in the left parabolic coronary region	Front Neurol, 2023 Jul, 14:1153941	Case report
93	Makoto Kawanishi, Yukihide Nishimura, Tokio Kinoshita, et al	リハビリテーション医学講座	Effects of continuous bicycle ergometer and step exercises from admission to discharge in a patient with myelodysplastic syndrome undergoing myeloablative conditioning and hematopoietic stem cell transplantation: A case report	Medicine (Baltimore), 2023 Jun, 102(24):e34001	Case report
94	Yuka Okuda, Toshiyuki Kuriyama, Tomoyuki Kawamata	麻酔科学講座	Efficacy of metyrapone for symptoms of adrenocortical carcinoma	BMJ Support Palliat Care, 2024 Jan, 13(e3):e971-e973	Case report
95	Akari Yoshida, Masayuki Nishibata, Tomoyuki Maruyama, et al	麻酔科学講座	Activation of Transient Receptor Potential Vanilloid 1 Is Involved in Both Pain and Tumor Growth in a Mouse Model of Cancer Pain	Neuroscience, 2024 Feb, 538:80-92	Original Article
96	Shunya Ogawa, Hirotsugu Kanda, Hiromichi Kurosaki, et al	麻酔科学講座	Left common peroneal nerve palsy caused by cross-legged sitting during epidural labor analgesia: a case report	JA clinical reports, 2024 Feb, 10(1):15	Case report
97	Tomoyo Mukai, Yoshi Tsukiyama, Shinobu Yamada, et al	高度救命救急センター-HCU	Virtual Reality Images of the Home Are Useful for Patients With Hospital-Based Palliative Care: Prospective Observational Study With Analysis by Text Mining	Palliat Med Rep, 2023 Aug, 4(1):214-219	Original Article
98	Fumiyoshi Kojima, Fidele Y Musangile, Ibu Matsuzaki, et al	人体病理学講座	Current Knowledge and Prospects for Renal Hemangioblastoma and Renal Cell Carcinoma with Hemangioblastoma-like Features	Biomedicines, 2023 May, 11(5):1467	Letter
99	Fumiyoshi Kojima, Ibu Matsuzaki, Fidele Yambayamba Musangile, et al	人体病理学講座	Clinicopathological and molecular features of renal cell carcinomas with haemangioblastoma-like features distinct from clear cell renal cell carcinoma	Histopathology, 2024 Feb, 84(3):539-549	Original Article
100	Shin-Ichi Murata, Ibu Matsuzaki, Mitsuo Kishimoto, et al	人体病理学講座	Papillary thyroid carcinoma with aggressive fused follicular and solid growth pattern: A unique histological subtype with high-grade malignancy?	Pathol Int, 2023 May, 73(5):207-211	Original Article

小計
10件

101	Shin-Ichi Murata, Hideto Iguchi, Mari Kawaji, et al	人体病理学講座	Sclerosing Fibroadenoma With Atypical Ductal Hyperplasia Mimicking Invasive Carcinoma: A Case Report With Diagnostic Pitfall	Cureus, 2023 Jul, 15(7):e41791	Case report
102	Masaya Morimoto, Yuma Yokoya, Kikuaki Yoshida, et al	臨床感染制御学講座	Predictive Model for Occurrence of Febrile Neutropenia after Chemotherapy in Patients with Diffuse Large B-Cell Lymphoma: A Multicenter, Retrospective, Observational Study	Hematology reports, 2024 Feb, 16(1):76-88	Original Article

小計
2件
合計
102件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Toshiaki Takakura, Nobuyuki Yamamoto	内科学第三講座	[Treatment of Non-Small Cell Lung Cancer with HER2 Alterations]	Gan To Kagaku Ryoho, 2023 Jul, 50(7)	Review
2	Daisuke Fukui, Daisuke Nishiyama, Manabu Yamanaka,et al	整形外科科学講座	Development of a Novel Rat Knee Osteoarthritis Model Induced by Medial Meniscus Extrusion	Cartilage, 2023 Oct, 194760352312056 80	Original Article
3	Takahiro Kozaki, Takuhei Kozaki, Keiji Nagata,et al	整形外科科学講座	Dynamic cord compression induced by proximal junctional failure and loose pedicle screws after thoracolumbar fusion surgery: a case report	BMC Musculoskelet Disord, 2023 Aug, 24(1):669	Original Article
4	Hideki Sakatani, Masamitsu Kono, Tatsuya Shiga,et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	The Roles of Transient Receptor Potential Vanilloid 1 and 4 in Olfactory Regeneration	Laboratory investigation, 2023 Apr, 103(4):100051	Original Article
5	Mai Miyamoto, Shunji Tamagawa, Masamitsu Kono,et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	A rare case of Pseudomonas aeruginosa enteritis induced by pembrolizumab	Auris Nasus Larynx, 2023 Oct, 50(5):836-840	Case report

合計
5件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 「倫理審査委員会の審査及び運営に関する標準業務手順書」 倫理審査委員会が行う審査の手続きと委員会の運営に係る手順を定めるもの 「人を対象とする生命科学・医学系研究に係る標準業務手順書」 倫理指針に基づく研究の適正な実施並びに個人情報の保護に関する法律および関連法令等に基づく学術研究目的で行う個人情報等の適正な取り扱いについて、必要な手続きと運用の手順を定めるもの。 「人を対象とする生命科学・医学系研究における重篤な有害事象発生時の対応手順書」 本学で行われる侵襲を伴う研究で重篤な有害事象が発生した際の対応手順を定めるもの。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反ポリシー、セーフ・ハーバー・ルール、委員会規程、臨床研究及び治験等に係る利益相反マネジメント実施要綱	

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年5回
---------------------------------------	-----

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>Eラーニングシステムによるオンラインでの研究者向け講習を実施。</p> <p>(人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針の対象となる研究を行う研究者向けの「Basicコース」と臨床研究法の対象となる研究を行う研究者向けの「臨床研究法コース」の2コース)</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

【糖尿病・内分泌・代謝内科】

当科では、糖尿病および内分泌代謝領域についての診療を実践している。多くの専門医による指導体制を整え、専攻医に対して高度な研修を提供している。

糖尿病治療において、1型糖尿病に対するインスリンポンプ療法（SAP療法）を積極的に導入している。甲状腺結節に対する穿刺吸引細胞診、治療困難なバセドウ病、下垂体および副腎などの疾患についても県内全域から専門治療を目的とする紹介を受け、研修ができる環境を整備している。

【消化器内科】

内科専門医研修を基本とし、サブスペシャリティ領域として、消化器病専門医の研修を行う。さらに次のステップとして、肝臓専門医あるいは消化器内視鏡専門医の研修を行う。

【呼吸器内科・腫瘍内科】

和歌山県立医科大学内科専門医研修プログラムによる専門研修を行う。まずは内科専門医取得を目標とし、呼吸器学会、アレルギー学会、呼吸器内視鏡学会、臨床腫瘍学会などの指導医（医局スタッフ）の指導のもとで、専門的な診断・治療の知識、手技の経験と習得が可能である。

【循環器内科】

心血管病の診療は正しい診断から始まります。身体所見と心電図、胸部X線写真など基本的検査を読み解いて情報収集を行います。心臓超音波検査、心臓CT、心臓MRIなど先端的画像診断機器を用い、必要に応じて心臓カテーテル検査、電気生理学的検査など侵襲的診断を追加して病態に迫ります。診断がついた後は治療です。薬物療法のみならず低侵襲手術を内科医が実施できるのが、循環器内科の特徴の一つです。具体的には経皮的冠動脈インターベンション、カテーテルアブレーション、ペースメーカー植込み、経カテーテル的大動脈弁留置術など従来なら手術でしか治療できなかった疾患を内科医の手によって根本治療が可能です。研修目標としては、まず内科医として循環器内科医としての臨床能力を身につけていただきます。その上で循環器内科のサブスペシャリティを専攻し、最終的には世界で唯一無二を目指す、すなわち研究遂行能力を習得していただきます。

【腎臓内科（人工透析）】

1. 健診や学校検尿における検尿異常から腎生検が施行でき、腎臓病を早期に診断できる
2. 慢性腎炎、ネフローゼ症候群に対して適切な治療を選択できる
3. 保存期腎生検の管理として透析遅延のための適切な治療管理ができる
4. 急性血液浄化療法の適応を判断し施行できる
5. 透析導入に対して腎代替療法の全てを患者に説明し選択できる機会を与える
6. 血液透析においてバスキュラーアクセス作成を行い管理ができる
7. 血液透析及び腹膜透析の適正な維持透析管理ができる
8. 長期透析患者の合併症管理ができる
9. 腎移植患者の適正な管理ができる

【血液内科】

卒後3年目から5年目までは原則、新専門医制度に準拠した「和歌山県立医科大学内科専門研修プログラム」に従って研修を行う。一般内科疾患や救急疾患のマネジメントができるよう血液疾患を通じて能力を身につけることを目標とする。血液疾患の診断、血液標本の診断を基本とし

、大学病院で行うことができる先進医療についても研修する。悪性リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫などの悪性腫瘍の化学療法、自家・同種造血幹細胞移植についても目標症例数を設定して幅広く研修する。研修期間中に学会発表、論文発表を年1回以上を目標に行えるよう指導する。本年度からCAR-T療法を導入し、CAR-T療法にともなうサイトカインストーム症候群の管理も学べる環境が整っている。

【脳神経内科】

病院での勤務を中心に臨床神経学を学び、最短7年目で神経内科専門医を取得できるプログラムや大学病院での研究、希望に応じて海外留学もできるプログラムを用意しております。いずれの場合でも、原則3年目は大学病院でしっかり神経学の基礎を学んでいただくため、大学病院で医員という立場で研修をスタートします。大学では病棟医として勤務していただきます。診療体制としては、病棟医長をはじめとした医局スタッフが研修医の直接指導にあたっており、彼らをリーダーとして3-4チームのグループ診療を行っております。病棟では教授回診を毎週行っております。また、教授外来の新患外来に付いて外来診療を学ぶこともできます。定期的に神経生理学的検査（筋電図・伝導速度検査・大脳誘発電位検査、脳波など）や頸動脈超音波検査・経頭蓋超音波検査を実施しており、担当教員から直接指導を受け、検査の仕方、所見の読み方を学習します。

【リウマチ・膠原病内科】

膠原病は全身性の自己免疫疾患であるため、自己抗体や抗核抗体の陽性率が高く、かつそれらは臨床的意義を有している。また一方で、各疾患特異的に活性化しているサイトカインが多く報告されており、それらを制御する生物学的製剤（分子標的薬）も日常診療で積極的に使用されている。したがってリウマチ・膠原病内科においては、患者の血清中における自己抗体やサイトカインの活性化を的確に把握治療法（薬剤）を選択するかが重要である。研修統括者および当科のスタッフはこの点において経験値が高く、また習熟しているため、患者の臨床症状や検査所見から適切な分子標的療法を選択できるよう研修を行っている。

【小児科】

専門医機構の認定を受けた「和歌山県立医科大学小児科専門研修プログラム」に沿って研修を行う。附属病院内の小児医療センターと総合周産期母子医療センターで研修を行い、小児医療センターで感染性疾患・内分泌代謝疾患・血液腫瘍疾患・アレルギー疾患・呼吸器疾患・消化器疾患・腎泌尿器疾患・循環器疾患・神経疾患を担当医として研修し、総合周産期母子医療センターで新生児疾患・先天異常疾患・小児外科疾患を研修する。さらに、本附属病院では1次から3次までの救急患者を受け入れる体制も有しているため、小児科医として欠くことのできない救急疾患の対応、急性疾患の管理も研修する。

【神経精神科】

大学病院の精神科としては大規模の40床の精神科病床を有し、閉鎖病棟、隔離室、観察室も十分な空間を確保し、研修を行っている。具体的には、統合失調症や気分障害、認知症や発達障害などの精神科医としてのプライマリーな疾患、および特定機能病院に足り難治例、身体合併症例等のケース、また総合病院精神科として必要なリエゾン精神医学にも対応している。専攻医は主に入院患者の主治医となり、指導医の指導を受けながら、看護師、心理士、薬剤師、精神保健福祉士およびリハビリテーション等の各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、反復経頭蓋磁気刺激療法、修正型電気けいれん療法などの治療を柔軟に組み合わせる最善の治療を行う機会を提供している。

また週2回、合同カンファレンスを行い、個々の症例に対して専攻医にフィードバックするほか、生涯学習・自己研鑽・リサーチ・マインドの醸成の目的で、月1回の英文抄読会と症例検討会を実施し専攻医の研修に当たっている。

【心臓血管外科、呼吸器外科・乳腺外科】

1. 心臓血管外科では術者として胸骨正中切開、大伏在静脈採取、体外循環装着、難易度に応じて下肢動脈バイパスなどを行う。第一助手または第二助手として開心術に参加する。ICU管理を含めた開心術の周術期管理を研修する。
2. 呼吸器外科では術者として難易度に応じて小開胸胸腔鏡下手術を行う。第一助手、第二助手として呼吸器外科手術（ロボット手術を含む）に参加する。呼吸器外科の周術期管理を研修する。
3. 乳腺外科では術者として単純乳房切除術を行う。第一助手または第二助手として乳癌手術に参加する。乳癌の画像診断、薬物治療、放射線治療を学ぶ。乳腺外科の周術期管理を研修する。

【消化器・内分泌・小児外科】

低・中難易度の症例は主治医として研修をさせており、一定の手技の指導を行っている。
高難易度の症例は主に手術助手として参加し、周術期管理を教育している。

【脳神経外科】

脳腫瘍、脳血管障害、機能外科、脊髄・脊椎外科などのサブスペシャリティ領域の研修が可能である。各領域に2名程度の研修統括者を配置し、研修医の指導を行っている。それぞれの領域において、他施設から紹介された患者に対して高度医療を1週間あたり2～3症例の頻度で行われており研修医は短期間でも効率的に密度の高い研修が行える。

【整形外科】

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は1ヶ月の研修を1単位とする単位制を取り、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9か月で45単位を修得する修練プロセスで研修します。

【形成外科】

形成外科は、外傷、腫瘍、先天異常による欠損や変形の病態を把握し、診断法を習熟した後、再建法のプランニングが立案できることを目標とする。

また、特定の担当臓器をもたない形成外科は、チーム医療の重要性を示す。

【泌尿器科】

和歌山県立医科大学附属病院泌尿器科においては、泌尿器科悪性腫瘍に対するロボット支援手術（年間約140例）や腹腔鏡手術（年間約50例）が多いため、泌尿器科診療に必要な解剖や術式を理解が得やすいのみならず、手術の基本的な手技の習得も可能である。

その他にも、排尿障害、尿路結石、女性泌尿器、腎移植なども扱っており、それぞれの領域を専門とする指導医の下で研修を受けることができる。泌尿器科専門医のみならず、がん治療認定医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、腎移植認定医などの取得も可能である。

【産科・婦人科】

産科婦人科においては、産科婦人科専門医（16名）の指導の下、全ての領域における研修をおこなっている。サブスペシャリティに関しても産科では周産期母体胎児専門医3名、婦人科では婦

人科腫瘍専門医4名の指導の下、ハイレベルな研修を行っている。県下唯一の総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠や分娩の豊富な症例数を有し、また婦人科癌手術症例も多数ありハイレベルな研修が可能である。

【眼科】

複数の指導医の元で主治医として軽症から重症まで幅広く疾患を受け持ち、患者との接し方を学び、向上させるとともに、検査・診察及び治療方針の決定に携わる。また、多くの患者の手術介助、症例検討会でのプレゼンテーション、地方及び全国学会発表を行っている。

【耳鼻咽喉科・頭頸部外科】

基幹研修施設である和歌山県立医科大学附属病院と、和歌山県下および大阪府下を中心とした地域の基幹病院、専門病院、地域医療を担う病院群よりなる多彩な関連研修施設において、それぞれの特徴を生かした耳鼻咽喉科専門研修を行い、日耳鼻研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験します。また、旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科、がん研有明病院頭頸科、大阪大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科、大阪医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科との相互連携を行い、日耳鼻研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験します。プログラムに定められた研修の評価は施設ごとに指導管理責任者（関連研修施設）、指導医、および専攻医が行い、プログラム責任者が最終評価を行います。4年間の研修修了時には、すべての領域の研修到達目標を達成することができます。さらに、4年間の研修中、認定されている学会において学会発表を少なくとも3回以上行います。また、筆頭著者として学術雑誌に1編以上の論文執筆・公表を行う。研修の評価や経験症例は、日耳鼻が定めた方法でオンライン登録します。専門医および学位取得コースとして、大学院博士過程進学が可能です。大学院在籍期間は4年間で、大学院進学時期により年次プログラムが変動します。大学院進学時期から専攻医が興味を持つ領域の研究テーマを臨床実習の学術的なバックグラウンドを肉付けするようにして研究をスタートします

【皮膚科】

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える

【歯科口腔外科】

後期研修では、麻酔科学講座及び救急集中治療医学講座のご協力の下、麻酔研修及び救急研修を行っている

【放射線科】

・放射線珍談領域

320列CT装置や3T MRI装置を備えており、レポートシステムを用いて上級委によるダブルチェックによる研修体制を整えている

・放射線治療分野

汎用リニアック装置（Synergy）、IMRT専用機（Radixact）、小線源治療装置（MicroselectronV3）を備えており、高精度治療に対応した研修を行っている。またRI治療の研修にも対応している

・IVR分野

320列CT装置を備えた血管造影室を備えており高度治療に対応した研修を実施している。

【リハビリテーション科】

- ・ICUを含めた重症患者の超急性期および侵襲度の高い手術患者の周術期、特殊な治療法を受けている患者に対するリハビリテーション医療に関する診察、検査、リハビリテーション処方等の指導と実践を行う。
- ・リハビリテーション医療の専門領域である運動器リハビリテーション、脳血管疾患リハビリテーション、心大血管疾患リハビリテーション、呼吸器リハビリテーションを含め、各疾患に対するリハビリテーション医療を指導する。
- ・義肢装具外来、嚥下造影検査、脊髄損傷外来、痙縮治療外来など当科の専門外来を運用するための知識と技術を習得する。

【救急科】

救急科領域研修カリキュラムに定めた一般目標、行動目標、評価方法をそれぞれ研修項目として救急外来（ER）、集中治療室（ICU）、救急一般病棟、ドクターヘリで出動し、救急現場等で患者さんに対応することで臨床現場での学習を行います。また、臨床現場を離れた学習として各種OJTコースの受講や救急医学に関連する学術集会への参加及び認定された講演の受講等を行います。

【麻酔科】

周術期医療との観点から術前計画、麻酔計画、術中管理、術後管理の研修を行っている。これらについて、麻酔科専門医17名、ペインクリニック専門医6名、緩和医療専門医1名、心臓血管麻酔専門医4名で指導しており、高度な周術期医療の研修を行う。

【病理診断科】

病理診断科では、病理学総論的・各論的知識、最新の分子病理学的手法、病理診断に必要な臨床的知識を学ぶことにより、実践的で論理的な病理診断法の習得に主眼を置き、若い先生方が病理医としてより早く自立できるような魅力的な病理専門医及び細胞診専門医の研修プログラムを組んでいます。具体的には、専門医と1対1の指導の元、組織診、細胞診、病理解剖における病理診断のための観察法の基礎や基本的診断法及び診断に重要な染色法や分子病理学的手法で学びます。病理診断学の中の専門性についても、当初は偏った臓器ではなく、全身の幅広い分野の病理診断を経験していただき、その中から各専攻医の先生が興味を持たれた分野を専門にされるよう指導を行っています。また、同時に大学院博士課程に進むなど専攻医の希望にも柔軟に対応できる複数のプログラムを用意しています。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	70人
-------------	-----

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松岡孝昭	糖尿病内分泌代謝内科	教授	34年	
北野雅之	消化器内科	教授	34年	
中西正典	呼吸器内科・腫瘍内科	准教授	31年	
赤松弘朗	呼吸器内科・腫瘍内科	准教授	21年	
田中篤	循環器内科	教授	34年	
北端宏規	循環器内科	准教授	27年	
荒木信一	腎臓内科	教授	33年	

園木 孝志	血液内科	教授	36年	
宮本 勝一	脳神経内科	准教授	32年	
藤井 隆夫	リウマチ・膠原病内科	教授	35年	
徳原 大介	小児科	教授	26年	
紀本 創兵	神経精神科	教授	22年	
西村 好晴	心臓血管外科	教授	37年	
平井 慶充	呼吸器外科	講師	19年	
宮坂 美和子	乳腺外科	助教	18年	
川井 学	消化器・内分泌・小児外科	教授	29年	
松田 健司	消化器・内分泌・小児外科	准教授	28年	
速水 晋也	消化器・内分泌・小児外科	講師	21年	
早田 啓治	消化器・内分泌・小児外科	講師	21年	
三谷 泰之	消化器・内分泌・小児外科	講師	21年	
中尾 直之	脳神経外科	教授	38年	
深井 順也	脳神経外科	准教授	27年	
北山 真理	脳神経外科	講師	25年	
八子 理恵	脳神経外科	講師	23年	
尾崎 充宣	脳神経外科	講師	18年	
石井 政道	脳神経外科	助教	17年	
中井 康雄	脳神経外科	講師	16年	
中西 陽子	脳神経外科	助教	16年	
矢本 利一	脳神経外科	講師	15年	
佐々木貴浩	脳神経外科	講師	14年	
山田 宏	整形外科	教授	36年	
朝村 真一	形成外科	教授	28年	
原 勲	泌尿器科	教授	35年	
井篁 一彦	産科・婦人科	教授	37年	
雑賀 司珠也	眼科	教授	35年	
保富 宗城	耳鼻咽喉科頭頸部外科	教授	33年	
神人 正寿	皮膚科	教授	25年	アレルギー科
山本 有紀	皮膚科	准教授	34年	
国本 佳代	皮膚科	准教授（寄附講座）	20年	
稲葉 豊	皮膚科	講師	15年	
松村 達志	歯科口腔外科	教授	28年	
鈴木 滋	歯科口腔外科	講師	20年	
田坂 ゆかり	歯科口腔外科	助教	15年	
冢田 晋輔	歯科口腔外科	助教	15年	
園村哲郎	放射線科	教授	38年	
幸田 剣	リハビリテーション科	准教授	25年	
井上 茂亮	救急・集中治療部	教授	23年	
川股 知之	麻酔科	教授	33年	
村田 晋一	病理診断科	教授	38年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【看護部】

- ・研修の主な内容：看護過程と看護実践能力の育成、看護マネジメント力の育成、自己他者教育力の育成
- ・研修の期間・実施回数：2023年4月～2024年2月 69回
- ・研修の参加人数：1935人

【中央検査部】

- ・研修の主な内容
「検査前プロセスの重要性」、「ランサムウェア攻撃のリスクとその影響」、
「不規則抗体スクリーニング」、「微生物検査部の同定方法について」、
「第64回日本臨床細胞学会 予演会」、「微生物検査室の役割」、
「微生物検査の検体採取方法」、「より良い発表・研究のために～特に若手技師～」、
「第62回近畿支部医学検査学会 予演会」、「第62回近畿支部医学検査学会 予演会」
「中央検査で実施した災害訓練について」、「生化学分野での質量分析について」
「SP-D院内測定の臨床的有用性」、「長時間ホルター心電図」、「臓器移植について」
「子宮頸がんについて」
- ・研修の期間・実施回数
2023年4月～2024年3月まで 15回開催
- ・研修の参加人数
延べ419名（27.9人/回）

【中央放射線部】

- ・研修の主な内容：令和5年度医療放射線研修（法令に基づく内容）
- ・研修の期間・実施回数：令和5年4月1日（月）～令和6年3月29日（金） 1回
- ・研修の参加人数：132名（医師以外）

- ・研修の主な内容：RI規制法に基づく教育訓練（e-ラーニング講習）（法令に基づく内容）
- ・研修の期間・実施回数：令和4年4月～令和5年3月 1回
- ・研修の参加人数：72名（医師以外）

- ・研修の主な内容：放射線診療従事者のための研修会（e-ラーニング講習）
- ・研修の期間・実施回数：令和4年4月～令和5年3月 1回
- ・研修の参加人数：72名（医師以外）

- ・研修の主な内容：放射性同位元素の防護に関する教育訓練（DVD講習）（法令に基づく内容）
- ・研修の期間・実施回数：令和5年4月25日（火）～令和5年4月28日（金） 1回
- ・研修の参加人数：29名（医師以外）

【リハビリテーション部】

○リハビリテーション科クルーズ

- ・ 主な内容：医療安全、業務システム、感染対策、医療機器管理方法、装具療法、画像の見方、急変時対応、療法室看護業務、英文抄読の方法、疾患別リハビリテーション治療 など
- ・ 期間、回数：令和6年度は 4月1日～8月初旬まで 計26回実施
- ・ 研修の参加人数：それぞれ20-50名（医師、療法士、看護師、療法士学生など）

○患者急変時の対応研修

- ・ 日時：令和6年6月20日
- ・ 指導：笠松医師、岡本医師
- ・ 主な内容：医療安全（急変時対応について）講義、リハビリテーション治療中の患者急変を想定した急変時対応研修（実技）、症例検討会後、個別事例への対応検討
- ・ 期間および回数：2回/年程度
- ・ 研修の参加人数：20-45名程度（医師、療法士、看護師など多職種で実施）

【病態栄養治療部】

- ・ 研修の主な内容 NST勉強会
栄養管理の重要性を認識し、適切な栄養処方を行うための専門知識と技術の習得を目的とする。
- ・ 研修の期間・実施回数 2023年4月～2024年3月まで 計 8 回 参加者 443 名
通年対面での講演会実施しているが、コロナ禍における感染対策のため2020年度～Eラーニング（オンデマンド配信）にて実施

【臨床工学センター】

- ・ 研修の主な内容 人工呼吸器、医用ポンプ、除細動、補助循環装置、ドリップアイ等
- ・ 研修の期間・実施回数
異動時・新規採用時 73 回、新規備品購入時 14 回、定期研修 36 回
- ・ 研修の参加人数 異動・新規採用 236 名、新規購入機器説明 159 名 定期研修名 458 名

【薬剤部】

- ・ 研修の主な内容：医薬品情報について
- ・ 研修の期間・実施回数：令和5年4月～令和6年3月・22回
- ・ 研修の参加人数：延べ514名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

【看護部】

- ・ 研修の主な内容：看護の補助業務を遂行するための研修
- ・ 研修の期間・実施回数 2023年9月～2024年3月 33回
- ・ 研修の参加人数 58人

【中央検査部】

- ・ 研修の主な内容
「タスクシフトについて」、「ISO15189支援システムCaresphere QMについて」、

「文書管理について」、「IS015189:第4版更新に向けてのスタートアップミーティング」、「IS015189必須トレーニング「化学物質」」、「IS015189第4版管理手順書について」、「IS015189変更点概要セミナー」、「IS015189:2022(第4版)全要求事項解説セミナー」、「中央検査部 災害訓練」、「内部監査レビュー」、「IS015189第4回定期サーベイランス 不適合事項の方向性について」

- ・ 研修の期間・実施回数
2023年4月～2024年3月まで 11回開催
- ・ 研修の参加人数
延べ367名 (33.3人/回)

【中央放射線部】

- ・ 研修の主な内容 産科危機的出血等の緊急IVRについて
- ・ 研修の期間・実施回数 令和5年4月10日 1回
- ・ 研修の参加人数 診療放射線技師 22名

- ・ 研修の主な内容 昨年度のインシデント集計および解析
- ・ 研修の期間・実施回数 令和5年5月2日 1回
- ・ 研修の参加人数 診療放射線技師 23名

- ・ 研修の主な内容 IVR部門でのAI活用の現状
- ・ 研修の期間・実施回数 令和5年6月4日 1回
- ・ 研修の参加人数 診療放射線技師 22名

- ・ 研修の主な内容 CT撮影時の被ばく低減について
- ・ 研修の期間・実施回数 令和5年7月22日 1回
- ・ 研修の参加人数 診療放射線技師10名

- ・ 研修の主な内容 陽子線治療の現状
- ・ 研修の期間・実施回数 令和5年8月7日 1回
- ・ 研修の参加人数 診療放射線技師 23名

- ・ 研修の主な内容 救急部CT撮影について
- ・ 研修の期間・実施回数 令和5年9月12日 1回
- ・ 研修の参加人数 診療放射線技師 23名

- ・ 研修の主な内容 心臓血管治療の最先端
- ・ 研修の期間・実施回数 令和5年10月16日 1回
- ・ 研修の参加人数 診療放射線技師 21名

- ・ 研修の主な内容 最新のCT用自動注入器について
- ・ 研修の期間・実施回数 令和5年11月6日 1回
- ・ 研修の参加人数 診療放射線技師 11名

- ・ 研修の主な内容 最新のCT装置での脳神経画像について
- ・ 研修の期間・実施回数 令和5年12月18日 1回
- ・ 研修の参加人数 診療放射線技師 28名

- ・ 研修の主な内容 がん遺伝子パネル検査の現状について
- ・ 研修の期間・実施回数 令和6年1月10日 1回
- ・ 研修の参加人数 診療放射線技師 11名

- ・ 研修の主な内容 CT撮影時の再構成について
- ・ 研修の期間・実施回数 令和6年2月20日 1回
- ・ 研修の参加人数 診療放射線技師 15名

- ・研修の主な内容 海外の学会（オーストリア）でのAI関連の発表会場の様子
- ・研修の期間・実施回数 令和6年3月7日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 29名

【リハビリテーション部】

- ・新患検討会 毎日 17時30分～18時30分 医師5名、療法士2名程度、看護師等
- ・英文抄読会 毎週火曜日 8時30分～9時 医師7名、医学部・療法士学生、療法士全員
- ・画像カンファレンス 毎週火曜日 12時30分～13時 医師6名、医学部・療法士学生、療法士全員
- ・訓練室回診 毎週火曜日 16時15分～17時 医師5名、医学部・療法士学生、療法士全員
- ・リハビリテーション科入院患者検討会 毎週火曜日 13時30分～14時30分
医師7名、医学部学生5名、看護師1名、療法士1名
- ・症例検討会 毎週木曜日 18時30分～19時 医師6名、医学部・療法士学生、療法士全員

【病態栄養治療部】

- ・看護師の特定行為研修にて講義
経腸栄養について 対象者：看護師 人数 5名

【臨床工学センター】

- ・研修の主な内容 臨床工学センター管理の医療機器の取扱説明
- ・研修の期間・実施回数 定期研修 10回、新規購入器適宜 3回、新規採用時 1回
- ・研修の参加人数 定期研修 240名、新規購入器適宜 59名、新規採用時 3名

【薬剤部】

- ・研修の主な内容：新規採用医薬品等について
- ・研修の期間・実施回数：令和5年4月～令和6年3月・6回
- ・研修の参加人数：延べ120名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

【リハビリテーション部】

- ・研修の主な内容：療法士の治療技術習得、多職種でのチーム医療経験、カンファレンスへの参加、英文抄読会での発表、症例検討会での発表など
- ・研修の期間・実施回数：連続3-6ヶ月 当院に臨時職員として採用し勤務
- ・令和5年度の卒後臨床研修の参加人数：4施設からのべ13名（全員理学療法士）
済生会八幡総合病院、愛知医大病院、貴志川リハビリテーション病院、北出病院 など
他施設からの施設見学・短期研修生受け入れ
- ・令和5年度参加人数：3施設からのべ8名（医師、言語聴覚士、学生）

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 西村 好晴
管理担当者氏名	事務局長 貴志 幸生

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	経理課 医事課 医療情報部 薬剤部	平成22年5月より、電子カルテが稼動しており、電子媒体に保存されている。診療録の持ち出しについては診療記録管理要綱で禁止されている。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	経理課 総務課	書類形式で、ファイルに綴じて管理
		高度の医療の提供の実績	経理課 医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	経理課	
		高度の医療の研修の実績	経理課	
		閲覧実績	経理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経理課 薬剤部	書類形式で、ファイルに綴じて管理
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進部	
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進部	書類形式で、ファイルに綴じて管理	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進部		
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	に掲げる事項	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター サイボウズ	

書類形式で、ファイルに綴じて管理

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	経理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	経理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	危機対策室
		職員研修の実施状況	医療安全推進部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	経理課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	危機対策室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課内又は管理棟書庫		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. <input checked="" type="radio"/> 現状
閲覧責任者氏名	病院長 西村 好晴
閲覧担当者氏名	医療安全推進部長 水本 一弘 医事課長 掛田 雅昭 経理課長 河村 吉基
閲覧の求めに応じる場所	・医事課、経理課
閲覧の手続の概要 閲覧の求めに応じて開示(一部はホームページなどに掲載)	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無		
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>和歌山県立医科大学附属病院は、安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献することを理念としており、ハイリスクな先端医療や臨床研究及び最新の看護技術などを、安全に患者に提供するかが求められている。しかし、医療は潜在的に不確実な要素とリスクを多分に含んでおり、医療行為を行う以上、有害事象の発生は不可避であることも事実である。</p> <p>したがって、当院では、有害事象の発生頻度を減少させる努力を行うと同時に、まずはこれらのリスクに向き合い、有害事象が発生した場合の医学的な対応力を向上させる努力を行う。医療事故発生時には当院の技術を集結して治療に当たり、部門横断的に状況の改善に最善を尽くす。患者及び家族には遅滞なく事実を伝え、責任を持って治療・原因究明・再発防止に取り組むことを説明する。</p> <p>有害事象の発生が不可避である以上、それぞれの診療行為の過程において、どのように事故予防のための努力が払われているかも重要な指標となる。近年の学際的研究により、医療事故防止の発生には医学的事由や医療者個人の技量のみならず、様々な背景因子が複合的に関与することが明らかとなっており、その予防のためには事故原因の分析と医療行程の標準化が有用と考えられるようになった。</p> <p>当院では、病院全体でこれらの課題に取り組み、第三者による客観的評価を受けながら、組織的な事故防止対策や、職員への教育・指導を継続していく。</p>			
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況			
<p>・ 設置の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 開催状況：年 1 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>平成12年12月1日から「医療安全推進の新制度」をスタートさせて以降、医療安全推進委員会を月1回開催している。</p> <p>(1) 医療の安全管理のための基本指針の策定に関すること。</p> <p>(2) 重大な問題その他推進委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。</p> <p>(3) 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること。</p> <p>(4) 前号の改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた方策の見直しに関すること。</p> <p>(5) 入院患者が死亡した場合及び入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生した場合における医療安全推進部への報告の実施状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。</p> <p>(6) 前号に規定する実施状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導に関すること。</p> <p>(7) 医療安全推進のための職員研修等に関すること。</p> <p>(8) 職員総参加の医療安全推進に関すること。</p> <p>(9) その他、医療の安全確保と医療の質の向上に関すること。</p>			
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4 回		
<p>・ 研修の内容 (すべて)：令和5年度開催実績</p>			
No.	開催期間	テーマ	受講人数
1	R5.5.8～R6.2.29	「医療安全の基本を知る『取り違え』」	1976
2	R5.5.8～R6.2.29	「心理的安全性②『心理的安全性の歴史と現場に心理的安全性があるとき!』」	1976

3	R6. 10. 12 R6. 12. 25 R6. 2. 19 R6. 3. 8	〈総務課主催〉「BLS実技講習会」	66
4	R6. 3. 22	「医療機器の安全管理について」	71

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 ((有)・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

医療安全推進規程等に基づいて、院内報告制度を定め、積極的な報告の推進に努めている。レポートの迅速かつ適切な分析等に努めるとともに、医療安全推進部内で、週1回定例事例検討会を行い、医療安全推進委員会、リスクマネージャー会議を通じて、事例の共有と改善策の周知徹底を行っている。

特に、アクシデント事例は、医療安全推進委員会で分析と安全管理に係る改善策等について検討協議を行うとともに、重大事故調査委員会での審議を必要とするものについては、随時、同委員会で審議している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 院内感染対策に関する基本的な考え方 2 院内感染対策のための組織に関する基本事項 3 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7 その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 感染症の予防に関すること 2 感染症予防対策の部門間調整に関すること 3 感染症に関連する検査報告、経過、原因の追跡調査及び整理分析に関すること 4 感染症予防対策実施の教育、計画、指導及び勧告に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年9回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>第1回（E-ラーニング）： 「COVID-19②新型コロナの感染対策」 （受講者数1915名）</p> <p>第2回（6/6）：「①「感染対策これだけは！」 ②「微生物検査における検体採取について」」 （受講者：264名）</p> <p>第3回（9/13）：「手洗い講習会」（受講者：444名）</p> <p>第4回（11/29）：「尿路感染症」（受講者：44名）</p> <p>第5回（3/12）：「血流感染症」（受講者：74名）</p> <p>第6回（1/24）：「肺炎」（受講者：91名）</p> <p>特別開催（7/25～7/31）：「動画研修「手指衛生」」（受講者：1457名）</p> <p>特別回（E-ラーニング）： 「感染対策の具体①針刺しおよび血液・体液曝露防止」（受講者：85名）</p> <p>申込制（随時）：「手洗い講習会」（受講者：124名）</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有)・無)

ICTが院内ラウンドを実施し、院内各部署の感染管理状況の把握と現場への個別指導を行い、感染対策マネジャーは、ICTと協力して部署内の感染対策に当たる。
また、細菌検査室からの細菌分離情報は、感染制御部に報告され、検討の上、感染予防対策委員会に報告するとともに病院内各部署に周知する。

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 1 サーベイランスの実施（針刺し切創等血液曝露、耐性菌、医療器具関連感染、手術部位感染、手指衛生）
- 2 感染対策マニュアルの整備
- 3 院内巡回時のマニュアル遵守状況確認
- 4 薬剤耐性菌感染症判定と治療確認、血流感染症および特定広域抗菌薬使用患者調査
- 5 ICTwebの活用
- 6 各部署への情報共有（各病棟の細菌検出状況レポート・無菌材料検出菌報告等）

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 令和5年6月28日から令和6年2月29日の間、E-ラーニングで実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品安全管理研修(1)「錠剤の飲みこぼし」／「KCLの誤投与」 令和6年2月19日から令和6年3月29日の間、E-ラーニングで実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品安全管理研修(2)「麻薬の取り扱いについて」 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <p style="margin-left: 40px;">業務手順チェックリストにより確認し、改善が必要と思われる業務においては、当該部署と検討し、改善している。</p> 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： <p style="margin-left: 40px;">適否決定部門、臨床倫理委員会で承認を得た薬剤は、薬剤部内で回覧し情報共有を行っている。上限量を越えて処方された入院患者リストのファイルをDI室で作成し、病棟薬剤師に対して情報提供を行っている。その他の適応外使用薬は、各病棟薬剤師から情報を収集し、薬剤部共有フォルダ内にデータを入力することで、情報共有を行っている。</p> ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品・医療機器等安全性情報については、製薬企業MRからの情報提供のほかPMDAナビなどインターネットを利用した情報収集を積極的に行い、入手した情報については、DIニュース等を定期的に発行し周知を図っている。 2. 定期的な情報以外に緊急を要するものについては、随時情報提供を行う。 3. 情報提供は文書配布及び電子カルテシステムのポータルサイトへの掲載を行っている。 4. 緊急かつ重要な情報は院内メールを活用し、医師をはじめとする医療スタッフに周知徹底を図る。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 345 回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容： 	
<p>異動時・新規採用時 290 回、新規備品購入時 17 回、定期研修 38 回 CRRT、PCPS、保育器、人工呼吸器、除細動器、ベッドサイドモニタ、医用ポンプ など</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る計画の策定 (有・無) 機器ごとの保守点検の主な内容： 	
<p>メーカー定期点検：人工呼吸器、麻酔器、循環補助装置、血液浄化装置、内視鏡装置、放射線検査装置関連</p>	
<p>臨床工学センター定期点検：患者漏れ電流等電気的安全点検、操作点検 除細動装置、医用ポンプ、保育器、人工呼吸器、麻酔器、循環補助装置、血液浄化装置、内視鏡装置 ※人工呼吸器、麻酔器、循環補助装置、血液浄化装置、内視鏡装置はメーカー及び臨床工学センター双方で実施</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)： 	
<ul style="list-style-type: none"> その他の改善のための方策の主な内容： 	
<p>医療機器インシデントやアクシデント等発生した際、サイボウズにて図解にて臨床工学センターより報告閲覧が可能 メーカーからの報告書を医療機器管理システムに保管し、電子カルテ端末より閲覧が可能</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全推進委員長を担っている副病院長が医療安全管理責任者となり、統括する。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (7名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品に関する情報は、医薬品情報・安全部門担当者に整理、周知及び周知の確認を行わせている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品の使用状況や使用に係る情報については、医薬品情報・安全部門担当者に電子カルテや病棟薬剤師より収集させ、必要に応じて報告させている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種：薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の実席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>：部門リスクマネージャー及び診療情報管理士による診療録監査において、IC説明時にテンプレートを用いているか、テンプレートに沿った記載がされているかなどについて確認を行っており、不適切な事例があった場合は診療録等の管理に関する責任者（説明に関する責任者）から周知・指導を行っている。</p>	

また、規程（インフォームド・コンセントに関するガイドラインに関するガイドライン等）の周知を行うとともに、所定の書式の使用徹底及びテンプレートに沿った記載について指導している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>記載内容の確認：院内診療録記載マニュアルその他法令等に準じて、診療情報管理委員会が作成した点検シートを用いて、入院患者のカルテ（無作為抽出）を突合・目視で確認している。院内の診療情報管理士が一次点検を行い、多職種で構成されるRM（リスクマネージャー）が二次点検を実施する。診療情報管理委員会及び診療録等の管理に関する責任者（説明に関する責任者）に報告後、科長会にて報告を行い、各点検項目の講評について診療録等の管理に関する責任者（説明に関する責任者）から全診療科へ周知している。</p> <p>主な指導内容：点検項目となっている初診時記録（主訴、現病歴、既往歴）の記載漏れについて、診療録等の管理に関する責任者から対象となる医師の所属する科に指導を行っている</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・ 所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（4）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（ ）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全推進委員会及び調査委員会に係る事務に関すること。 (2) 重大事故その他の推進部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく職員への必要な指導に関すること。 (3) 医療の安全管理に係る連絡調整に関すること。 (4) 医療に係る安全の確保のための対策の推進に関すること。 (5) 医療に係る安全の確保に資する診療内容のモニタリングを平時から行い、診療の状況の把握及び職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること。 (6) 医療安全に関する研修その他職員の意識の向上に関する指導に関すること。 (7) インシデントレポート及びアクシデントレポートの受理及び分析評価に関すること。 (8) その他医療の安全推進に必要な業務に関すること。 	
① 「放射線レポート見落とし対策」 目的外臓器異常所見連絡件数	放射線画像診断医からの連絡件数を調査

② 院内急変件数	緊急コール報告書（ドクターホワイトコール・METコール報告）で毎月調査
③ 適切なインフォームド・コンセントの実施	リスクマネージャーの診療録監査（年2回）時に「IC記事入力」の使用率及び医師以外の職種の同席率を調査
④ 中央手術部カカスレポート 有害事象発生率	カカス報告から毎月調査
⑤ 術前中止薬中止忘れ	インシデント・アクシデントレポートから毎月調査
⑥ 手術関連死亡	全死亡報告で予定手術施行後死亡退院になった事例を調査
⑦ 血管外漏出発生件数・血管穿刺 時の神経障害発生件数	インシデント・アクシデント・カカスレポートから毎月調査
⑧ アナフィラキシーショック発生率	インシデント・アクシデント・カカスレポートから毎月調査
⑨ 入院患者の転倒・転落発生率	インシデント・アクシデントレポートから毎月調査
⑩ 肺血栓予防策の実施率	退院患者加算監査で調査（週1回）

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 評価委員会からの意見に基づき、申請に対する最終の適否を決定し、申請診療科へ通知を行う。
 - ・ 承認後の実施状況の確認を行う。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（38件）、及び許可件数（38件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・評価小委員会へ意見照会を行う。（臨床倫理委員会委員長が意見照会を受けて、開催毎に未承認医薬品等評価小委員会の委員長（議長）を選任する）
 - ・評価小委員会からの意見に基づき、申請に対する最終の適否を決定し、申請診療科へ通知を行う。
 - ・承認後の実施状況の確認を行う。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年437件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年43件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

(5) 入院患者が死亡した場合及び入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生した場合における医療安全推進部への報告の実施状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。

(6) 前号に規定する実施状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：宮崎大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：富山大学附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

<医療安全>

・医療安全に関するモニタリングについて、簡易かつ網羅的に情報収集できる体制を検討してはどうか

⇒オカレンス報告を簡易に入力できる仕様に改修したことにより、「血管外漏出報告件数」、「薬剤によるアレルギー発生報告件数」について昨年度同月と比較すると増加、「中央手術部オカレンス」についても報告内容の項目数及び報告件数について昨年度同月と比較すると増加している。

<医薬品等>

・適応外使用含め未承認新規医薬品等使用後の4、5か月ごとの確認体制があるが、持続可能性と業務量を考慮した体制づくりが必要ではないか

⇒実施報告を終了する時期を定めていなかったが、終了時期（導入後5年間が経過する日の属する年度末まで）を定めたことによって業務量を削減できたと考える。

<高難度>

実施報告を1か月後だけでなくその後も一定の期間で報告を求める体制が必要ではないか

⇒1か月後の実施確認に加え、定期的に経過確認を行うこととしたため、継続して実施確認を行うことを可能とした。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口において、安全管理に係る相談のほか、医事相談や苦情、要望、臨床研究、治験など、患者及びその家族からの様々な相談等をワンストップで受け付け、医事課及び関係部署と連携して対応する体制となっている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況 令和5年度開催実績

No.	開催期間	テーマ	受講人数
1	R5. 5. 8～R6. 2. 29	「医療安全の基本を知る『取り違え』」	1976
2	R5. 5. 8～R6. 2. 29	「心理的安全性②『心理的安全性の歴史と現場に心理的安全性があるとき!』」	1976
3	R5. 10. 12 R5. 12. 25 R6. 2. 19 R6. 3. 8	〈総務課主催〉「BLS実技講習会」	66
4	R6. 3. 22	「医療機器の安全管理について」	71

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

日本医療機能評価機構 特定機能病院管理者研修

管理者：2024年2月

医療安全管理責任者：2023年12月受講

医薬品安全管理責任者：2024年2月受講

医療機器安全管理責任者：2024年1月受講

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

病院機能評価 一般病院3 (3rdG: Ver. 2.0) 認定更新審査を2022年11月に受審。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページにおいて公表 (令和5年9月14日公表)

<https://www.wakayama-med.ac.jp/hospital/info/kinohyoka.html>

・評価を踏まえ講じた措置

1. 医療の質向上対策委員会に臨床指標検討部会を設置することにより、当該部会において臨床指標を用いた質の改善に向け運用に努める。
2. 医療の質向上対策委員会を適正に運用し、医療の質に係る課題の抽出し、解決に取り組む。
3. 診療情報管理委員会において対応策を検討する。
4. 本年度既に予定されているBLS訓練とは別途、直近5年間に一度もBLS訓練を受けていない全ての職員 (本年度既に予定されている訓練の受講者を除く) 全員を対象に、年度内に訓練を実施する。
5. 中央放射線部運営委員会読影率向上検討部会にて対応策を検討し、画像診断医による読影が少ない診療科に対して読影依頼を促す。
6. 全職員を対象としている研修 (接遇研修など) の受講率を100%とするため、期限を設けて受講を促し、なお受講していない職員については、所属単位で実名を挙げて督促する。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 下記のとおり基準を策定し、ホームページで公表している。 <p>病院長には、人格が高潔で、学識に優れ、次に掲げる資質・能力が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医療安全の確保のために必要な資質及び能力 医療安全管理業務の経験、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること。 ②組織管理能力等の病院を管理運営する上で必要な資質及び能力 当院又は当院以外での病院の組織管理経験など、特定機能病院の管理運営上必要な資質能力を有していること。 ③当院の理念等を実現するために必要な資質及び能力 当院の理念及び基本方針の実現を目指し、リーダーシップを発揮し病院運営を行う能力を有していること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="radio"/> ） ・ 公表の方法 ホームページで公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> ・無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="radio"/>・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>・無 ） ・ 公表の方法 ホームページ 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
稲葉 信	副理事長	○	附属病院長候補者の選考委員会規程第3条第1項第1号に基づく役職指定	<input checked="" type="radio"/> ・無
伊東 秀文	理事(医学部長)		附属病院長候補者の選考委員会規程第3条第1項第2号に基づく役職指定	<input checked="" type="radio"/> ・無
谷口 善郎	理事(事務局長)		附属病院長候補者の選考委員会規程第3条第1項第3号に基づく役職指定	<input checked="" type="radio"/> ・無
森岡 郁晴	保健看護学部長		附属病院長候補者の選考委員会規程第3条第1項第4号に基づく役職指定	<input checked="" type="radio"/> ・無

太田 茂	薬学部長		附属病院長候補者の選考委員会規程第3条第1項第5号に基づく役職指定	有・無
柳瀬 安芸	看護部長		附属病院長候補者の選考委員会規程第3条第1項第6号に基づく役職指定	有・無
川股 知之	附属病院副院長		附属病院長候補者の選考委員会規程第3条第1項第7号に基づく医療安全管理責任者又は教育研究審議会から指名されたこれに準ずる教職員	有・無
雑賀 司珠也	産官学連携推進本部長		附属病院長候補者の選考委員会規程第3条第1項第8号に基づき教育研究審議会から指名された教職員	有・無
保富 宗城	共同利用施設長		附属病院長候補者の選考委員会規程第3条第1項第8号に基づき教育研究審議会から指名された教職員	有・無
中田 正範	学生部長		附属病院長候補者の選考委員会規程第3条第1項第8号に基づき教育研究審議会から指名された教職員	有・無
望月 龍馬	病態栄養治療部栄養士長		附属病院長候補者の選考委員会規程第3条第1項第8号に基づき教育研究審議会から指名された教職員	有・無
雑賀 博子	和歌山県福祉保健部技監		附属病院長候補者の選考委員会規程第3条第1項第9号に基づき理事長が任命する学外有識者	有・無
中村 博亮	大阪公立大学医学部附属病院長		附属病院長候補者の選考委員会規程第3条第1項第9号に基づき理事長が任命する学外有識者	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の運営に関する事項 ・ 診療に関する事項 ・ その他必要な事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 審議決定した事項のうち、特に必要な事項については、各所属長及び各診療科の病棟医長にメール配信するとともに、教育研究審議会、医学部教授会又は保健看護学部教授会にも報告している。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・無 ） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
西村 好晴	○	医師	附属病院長
原 勲		医師	附属病院副院長
田中 篤		医師	附属病院副院長
保富 宗城		医師	附属病院副院長
芝瀧 ひろみ		看護師	附属病院副院長
岡田 由香		医師	附属病院副院長
松岡 孝昭		医師	診療科長
北野 雅之		医師	診療科長
山本 信之		医師	診療科長
荒木 信一		医師	診療科長
園木 孝志		医師	診療科長
藤井 隆夫		医師	診療科長
徳原 大介		医師	診療科長
紀本 創兵		医師	診療科長
川井 学		医師	診療科長
中尾 直之		医師	診療科長
山田 宏		医師	診療科長
朝村 真一		医師	診療科長

井籠 一彦		医師	診療科長
雑賀 司珠也		医師	診療科長
神人 正寿		医師	診療科長
松村 達志		歯科医師	診療科長
園村 哲郎		医師	診療科長
井上 茂亮		医師	診療科長
川股 知之		医師	診療科長
村田 晋一		医師	診療科長
中川 貴之		薬剤師	薬剤部長
古田 眞智		医師	中央検査部長
神藤 洋次		臨床検査技師	中央検査部技師長
熊山 義孝		診療放射線技師	中央放射線部技師長
小池 有美		理学療法士	リハビリテーション部療法士長
望月 龍馬		管理栄養士	病態栄養治療部栄養士長
水本 一弘		医師	医療安全推進部長
小泉 祐介		医師	感染制御部長
西川 彰則		医師	医療情報部長
中村 一貴		臨床工学技士	臨床工学センター工学技士長
南 佐和子		医師	遺伝診療部長
村田 顕也		医師	教育研究開発センター長
上野 雅巳		医師	地域医療支援センター長
貴志 幸生		事務職	事務局長
末松 新一		事務職	事務局次長（病院）
島 泰弘		事務職	危機対策室長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容

附属病院長の職務として下記の事項を規定

- ・ 病院長は上司の命を受け、当該病院に属する院務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

附属病院長の職務分担として下記の事項を規定

- ・ 附属病院の将来計画に関する事
 - ・ 附属病院の予算編成・執行に関する事
 - ・ 附属病院施設及び医療備品の整備に関する事
 - ・ 附属病院の経営に関する事
 - ・ 医療安全に関する事
 - ・ 地域医療との連携及び支援に関する事
 - ・ 医療に係る情報公開・広報に関する事
 - ・ その他医療活動全般に関する事
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副院長が、上司の命を受け、病院長を補佐し、病院長に事故があるときは、当該職務を代理している。院内担当、渉外担当及び紀北分院担当の副院長を置くとともに、看護部長も副院長を兼任している。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

副院長及び院内の各部門の長等については、管理者である病院長が指名している。

病院のマネジメントに特化した研修は実施していないが、病院長と副院長等による会議を週に1回程度開催し、病院のマネジメントについて協議を行っており、その協議結果に基づき、各部門において病院運営を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について管理者等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。</p> <p>(2) 必要に応じ、当該病院の開設者又は管理者に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。</p> <p>(3) (1) 及び (2) に掲げる業務について、その結果を公表すること</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 (有・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 (有・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有・無)</p> <p>・ 公表の方法： ホームページによる公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山口 悦子	大阪公立大学	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・無	1
中川 利彦	パークアベニュー法律事務所		法律に関する識見を有するため	有・無	1
浦野 敏	NPO法人いきいき和歌山がんサポート		医療を受ける者	有・無	2
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

監事を置き、法人の業務等について監査させている。

監事は、理事等が不正な行為をしたり、そのおそれがあると認めるとき、又は法令及び定款に違反する事実や著しく不当な事実があると認めるときは、理事会に報告することとなっている。この報告を受け、理事等は、是正又は改善すべき事項を認めるときは、必要な措置を講じ、その結果を監事に報告することとなっている。

また、監事は法人の内部監査部門等と連携し、法人の適正な業務運営を確保するために必要な体制の整備状況や内部監査部門が実施した監査結果についての報告を求めることができる。

・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法

本学のホームページに会計監査人及び監事監査人の監査報告書を掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 附属病院を含めた法人の中期計画、予算・決算に関すること ・ 診療備品の整備方針等に関すること ・ 病院職員の採用方針に関すること 上記の案件について、理事会において審議を行っている。 ・ 会議体の実施状況（ 年13回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ）（ 年13回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ） ・ 公表の方法 学内ホームページにて公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年〇件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 学内ホームページに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>ホームページ</p> <p>病院広報誌「まんだらげ」</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>がんセンターボード（肝がん、甲状腺がん、肺がん、消化器がん、骨腫瘍、乳がん、頭頸部がん、すい臓がん）など</p>	